九州大学新キャンパス
パブリックスペース・アートワーク整備計画

2005年11月

1. はじめに

九州大学では、2001年3月に「新キャンパス・マスタープラン2001」を策定して以来、その実現を目指して「工学系地区基本設計」(2002年6月)、「センター地区基本設計」(2003年6月)を策定し、それらに従って施設を建設中である。
2004年9月には、「パブリックスペース・デザインマニュアル」を取りまとめ、新キャンパスのパブリックスペースにおける空間の質—クオリティ・オブ・ザ・プレースの創出とその継承を目的として具体的なデザインの方向性や手法について提示した。

本業務は、「パブリックスペース・デザインマニュアル」を踏まえ、アーワーク整備及び導入方式、その手法や指針についてとりまとめたものである。

目次

Page

1. アートワークの整備に関する検討

1-1. 新キャンパスにおけるアート作品のテーマについて

1) 求められる新キャンパス像 5
2) パブリックスペースの整備目標 6
3) アートワークテーマの立案
①全体テーマについて 7
②サブテーマについて 9

1-2. 新キャンパスにおけるアート作品のデザイン志向について

1) アートワークの分類とアートワークの属性 11
2) アートワークのデザイン志向について 12
3) 全体配置イメージ 13
4) アートワークの配置イメージ 14
5) 各アートワーク種別における作品のデザイン志向
①参考写真
A. 象徴的アート 15－17
＜抽象彫刻＞・＜半具象彫刻＞・＜環境的展開＞
B. 空間を特色づけるアート 18－24
＜絵画・レリーフ＞・＜壁面・天井＞
＜ミクストメディア・立体＞・＜吊彫刻＞
＜屋外＞・＜環境的展開／ベンチ＞
＜自然石・水の演出＞・＜ペイブメント＞
C. 環境的アート 25－32
＜屋内壁面＞・＜屋内床面＞
＜屋外壁面＞・＜屋外彫刻＞
＜ペイブメント＞・＜ベンチ・パーゴラ＞
＜サイン＞・＜ブリッジ・バス停＞
D. 1平米アート 33－36
＜平面作品＞・＜屋内サイン＞
＜コミュニティアート＞・＜写真＞・＜陶板＞
＜レリーフ＞・＜ベンチ＞・＜バス停壁面＞
＜インタラクティブアート＞・＜建築図面＞
＜アジア工芸＞・＜リサイクル＞

2. アートワーク導入方式

2-1. 選定基準

1) 評価・選定WGについて 38
2) アートワーク 選定方式の種別の選定基準 39
3) アートワーク 選定方式の種別 40

2-2. 寄贈依頼作品等の受け入れ規定

1) 審査手順 42
2) 審査内容 42
3) 寄付金・スポンサーシップの手法について 43
4) 寄付金・スポンサーシップの事例 44

2-3. 作品維持管理、移設・撤去に関する規定の作成

1) 維持管理 46
2) 移設・撤去の審議手順 46
3) 移設・撤去が可能となる条件 46

2-4. 国内・海外事例

1) 国内事例 48－51
2) 海外事例 52

添付資料

平成15年度新キャンパス計画専門委員会
パブリックスペース・ワーキンググループ検討会議について 54

1. アートワークの整備に関する検討

1-1. 新キャンパスにおけるアート作品のテーマについて

1-2. 新キャンパスにおけるアート作品のデザイン志向について

九州大学　新キャンパス・マスタープラン2001

求められる新しいキャンパス像

■「国際的・先端的研究・教育拠点の形成」と「自立的に変革し、活力を維持し続ける社会に開かれた大学の構築」を目指す大学に相応しい研究・教育施設の整備。

1）センターオブエクセレンスに相応しい研究・教育施設の整備

2）環境と共生する未来型キャンパスの創造

3）地域に開かれた魅力的なキャンパス生活の創造

4）新しい学術研究都市の核となるキャンパスづくりと地域連帯の推進

5）キャンパス間の連携に配慮した新キャンパスの創造

■アジアを軸に世界各地と連携するキャンパス像

九州大学の国際戦略を反映し、アジアを軸とする世界各地との多様な知的交流の拠点となる。

■地域まちづくりと連携するキャンパス像—九州大学学術研究都市構想

福岡から唐津にいたる多様な研究機関の立地や地域のまちづくりを積極的に進める、大学と地域が一体となった学術研究都市コア・ゾーンとしての役割を果たす。

■21世紀を活き続けるキャンパス像

1）連携と競争を尊重する知的創造のフロンティア

2）最新・最先端の知識情報を世界へ発信し続ける情報ステーション

3）地域及び世界に開かれた科学技術と知的交流のセンター

4）地域と世代を超えた友好のコミュニティ

5）地域と経済の産業のエンジン

6）新たなチャレンジと思考の実験都市

7）文化、歴史、伝統、知的活動成果の蓄積と継承の拠点

8）美しさと快適さを内包する風格あるシンボル

9）学生生活の観点を重視した賑わいと憩いのある共存するアメニティ空間

※下線はアートと関連する目標を示す。

「新キャンパスマスタープラン2001」に示された“全体計画目標”に対応するパブリックスペースの“整備目標”は、下図のようの整理される。

全体計画目標	計画の視点	パブリックスペースの整備目標
学府・研究院制度の理念を実現する空間構成とその管理・運営の確立 東西骨格に支えられる総合大学としての一体的な研究・教育環境の構築 経営を視野に入れた産学・地域連携と国際交流の拠点「タウン・オン・キャンパス」の戦略的育成 民間施設等の活用や立地誘導による研究・教育の活性化と生活支援の促進 伝統を創り出す象徴的空間と柔軟に変化・増殖する空間の共存 糸島地域の悠久の歴史と自然の共生 安心・安全で快適なキャンパス環境の整備 多様な技術に支えられたサステナブルキャンパスの形成 新しいシステムの創造にチャレンジする実験都市の構築	経営を視野に入れた大学の研究・教育理念、求められる機能の実現に関する視点	**●多様な空間・景観で構成される魅力ある骨格作り** **●さまざまな「出会い」「交流」「発見」の場の形成による“知的欲求”の刺激** **●完成を刺激するキャンパス空間の創出** ○建築（人工）と保全緑地（自然）との接点の多様化・多様な関係の構築 **●空間の魅力やアイデンティティを高める“要素”の導入** **●新キャンパスを代表するシンボリックな空間・景観の形成** **●地域との交流の場ともなる「開かれた」空間づくり** **●経済性・維持管理性に配慮した空間づくり**
	歴史や伝統、自然景観の保全・形成に関する視点	○風土を表象する自然の保全及び再生 ○周辺景観に調和した自然な地形づくり ○埋蔵文化財や地域自然等の「資源」の顕在化と活用 **●自然に近い素材や色の活用** **●キャンパスの新たな伝統・象徴となる空間の形成**
	安心・安全で快適なキャンパス環境の整備に関する視点	○学生の生活や行動に対応したヒューマンスケールの空間づくり ○ユニバーサルデザインの実践 ○四季の変化の感じられる空間づくり **●知的活動を触発するアートワークの展開** **●「集い」「たまり」「憩い」「語らい」「思想」等のさまざまな行動に対応した多様な空間づく** **●明快でわかりやすい空間づくり** **●「賑わい」「交流」の空間づくり**
	自然環境の保全・持続可能なキャンパス形成に関する視点	○（南北の保全緑地をつなぐ）グリーン・コリドーによる緑・生態系のネットワークづくり ○雨水の貯留・浸透等による地域の水循環への配慮と貢献 ○生物の生息や生物とのふれあい環境の形成 ○保全緑地の適正な管理と活用 ○生物生態系・多様性の維持・管理 **●エイジングを考慮した耐用年数の長い素材の活用などによるLLCの低減**

※●はアートと関連する目標を示す。

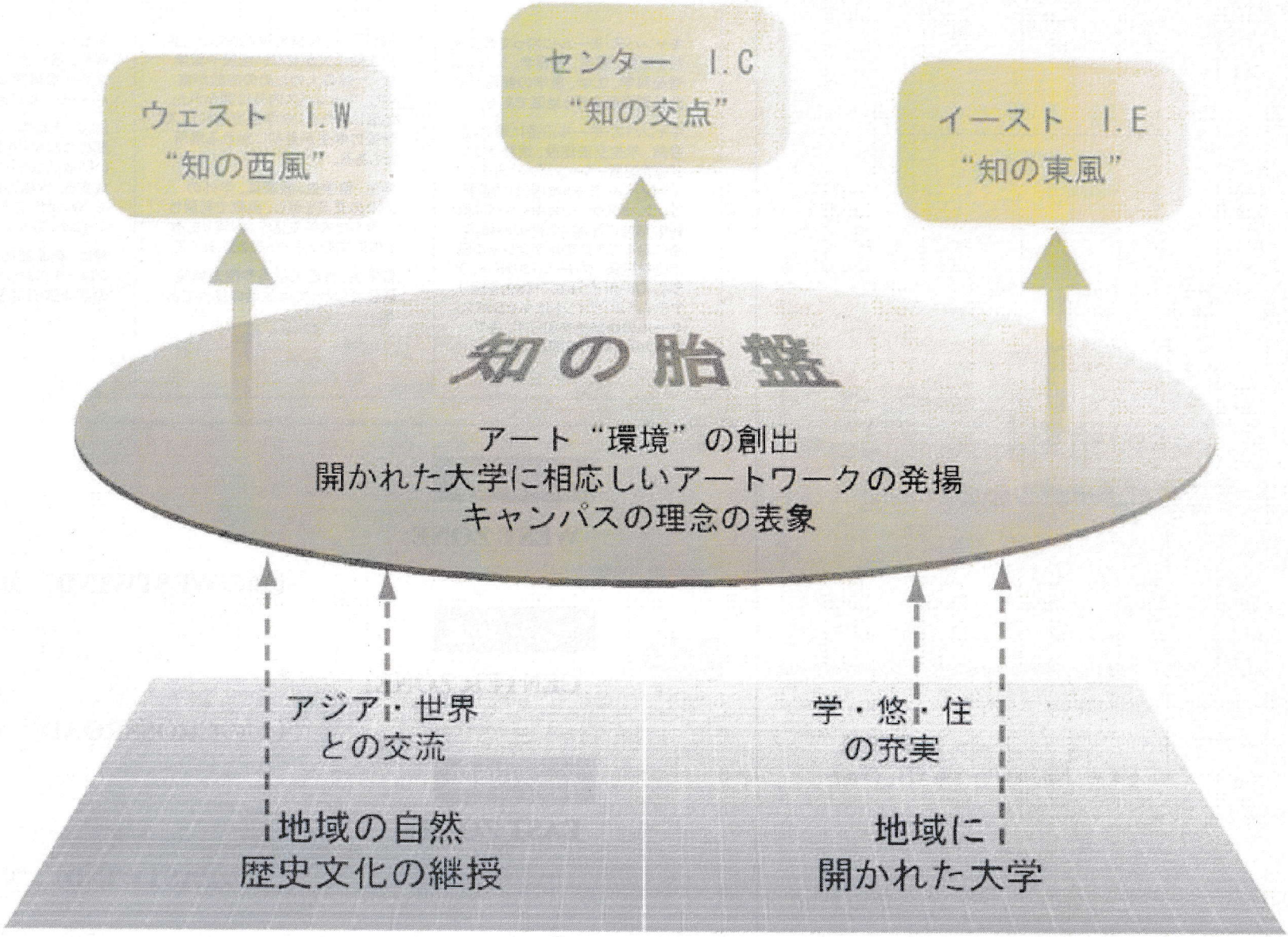
①全体テーマについて

『九州大学新キャンパスパブリックスペースデザイン・マニュアル』では、大学建設の「理念」を踏まえたパブリックスペースにおけるアートワークのための「アートコンセプト」が導き出された。本検討書ではこれを受けて、まず新キャンパス全体にまたがるアートワークのテーマを考案する。

理　念	「アジア・世界との交流」 「地域に開かれた大学」 「学・悠・住の充実」 「地域の自然・歴史・文化の継授」

アート コンセプト	**① アート“環境”の創出** －彫刻、絵画等のファインアートに限らず、キャンパス全体がアート性の高い感性豊かな環境となることを目指す。 －アートを身近な存在として「学」「悠」「住」の日常生活に織り込むことにより、“アート環境”の創出を図る。 **② 開かれた大学に相応しいアートワークの発揚** －近隣コミュニティに対し豊なアート環境を提供することで、開かれた大学としての空間づくりを行う。 －アートの導入に当たっては、本学に関わる各界各層の人々のパートナーシップによるアート“環境”の形成を目指す。 **③ 本学及びキャンパスの理念の表象** －「アジア・世界との交流」「地域に開かれた大学」「学、悠、住の充実」「地域の自然、歴史、文化の継承」といったコンセプトを表現し、普及を図る。 －芸術工学研究院を有する本学の独自性をキャンパス空間に具現化する。

①全体テーマについて


ウェスト I.W
“知の西風”
センター I.C
“知の交点”
イースト I.E
“知の東風”
知の胎盤
アート“環境”の創出
開かれた大学に相応しいアートワークの発揚
キャンパスの理念の表象
アジア・世界
との交流
学・悠・住
の充実
地域の自然
歴史文化の継授
地域に
開かれた大学

①全体テーマについて

新キャンパス全体にまたがるアートワークのテーマの立案をおこなう。各地区サブテーマについては、全体テーマから地区への展開を考案する。

『知の胎盤』

芸術的創造環境の形成

「知の時代」といわれる21世紀に、新しいスタイルのキャンパス生活空間を芸術的創造空間とし、創造性に富んだ人間性豊かな人材の育成を目指す。芸術がもたらす精神的・視覚的効用によって、空間の質－クオリティ・オブ・ザ・プレイスーを求め、「知の時代」にふさわしい新たなキャンパス像を創出していく。

②地区サブテーマについて

□ ウエスト地区	□ センター地区	□ イースト地区
キャンパス・モールに沿って教育施設を配置。理学、数理学、システム情報科学、工学、農学の部局が研究教育活動を行う地区である。 キャンパス・モール沿道に理系図書館、学生交流施設、情報ラウンジ等を配置。キャンパス・コモン、キャンパス・モールの空間的連続性、ランドスケープとキャンパス景観の形成に配慮。北側の幹線道路に沿って未来のポテンシャル軸用地を確保。グリーン・コリドー、アライバル・ポイントの一体化を図り、アライバル・ポイントはキャンパス・モールの距離感を和らげ、各ブロックの象徴的空間となる。	福利厚生、保健管理施設など、学生生活に欠かせない施設や留学生、一般の人のための施設が集中し、キャンパス内外に開かれた地区にあたる。全学教育施設は入学後の学生が最初に触れる場所でもある。 学生、留学生、教職員、学外の人々の交流を促し、柔軟で発展性に富んだ大学生活をより実りあるものにするサポート機能を有する。 留学生、外国人教員や宿泊施設居住者にとっては生活の拠点である。	キャンパス・モール沿道に中央図書館、講義室等教育施設群を配置。文系一般研究・教育施設をキャンパス・モールに隣接して展開する。 施設、土地の一体的な利用、施設間のつながりを重視し、眺めのよい開放的なキャンパス・コモンを形成する。幹線道路とキャンパス・モールが接する場所をアライバルポイント、象徴的空間とする。 特に、桑原3515号線の東からのアプローチに対して、大学の顔としての空間創りに配慮する。

ウエスト地区

WEST ZONE： **I・W**

（知の**WESTWIND**） 知の西風

センター地区

CENTER ZONE： **I・C**

（知の**CROSSROAD**） 知の交点

イースト地区

EAST ZONE： **I・E**

（知の**EASTWIND**） 知の東風

1. アートワークの整備に関する検討

1-1. 新キャンパスにおけるアート作品のテーマについて

1-2. 新キャンパスにおけるアート作品のデザイン志向について

①アートワークの種類と構成

・アートワークは、一般には図のように分類されるが、本マニュアルでは、「恒常的アート」を“ファイン系アート”から“環境デザイン”までのレンジの中で捉えることとする。

・この中で、“象徴的アート”は、「大学の顔」や「アライバルポイント」等、人の集散拠点空間の「シンボル」となるアートとして位置づけられる。また、“空間を特色付けるアート”は、アイストップなど、場の「アクセント」となるアートであり、これらは目的の明確なアートと言い換えることができる。

・一方、“環境的アート”とは、アート環境を具現化させるためにキャンパス内において広域的にかぶせた『アートメッシュ』をイメージするものである。これは、建築、広場、道路、緑地等、空間の属性に関係なく、キャンパスのエントランスのある一点を原点とするメッシュの交点付近にアートを刻印することを原則とするものであり、その意味で“ベーシック”で網羅的なアート(ネットワークアート)とも言える。

・“1㎡アートとは、壁面や舗装面等を利用し、場所の特性に配慮しつつ知的刺激を与えるアートとして位置づけられる。

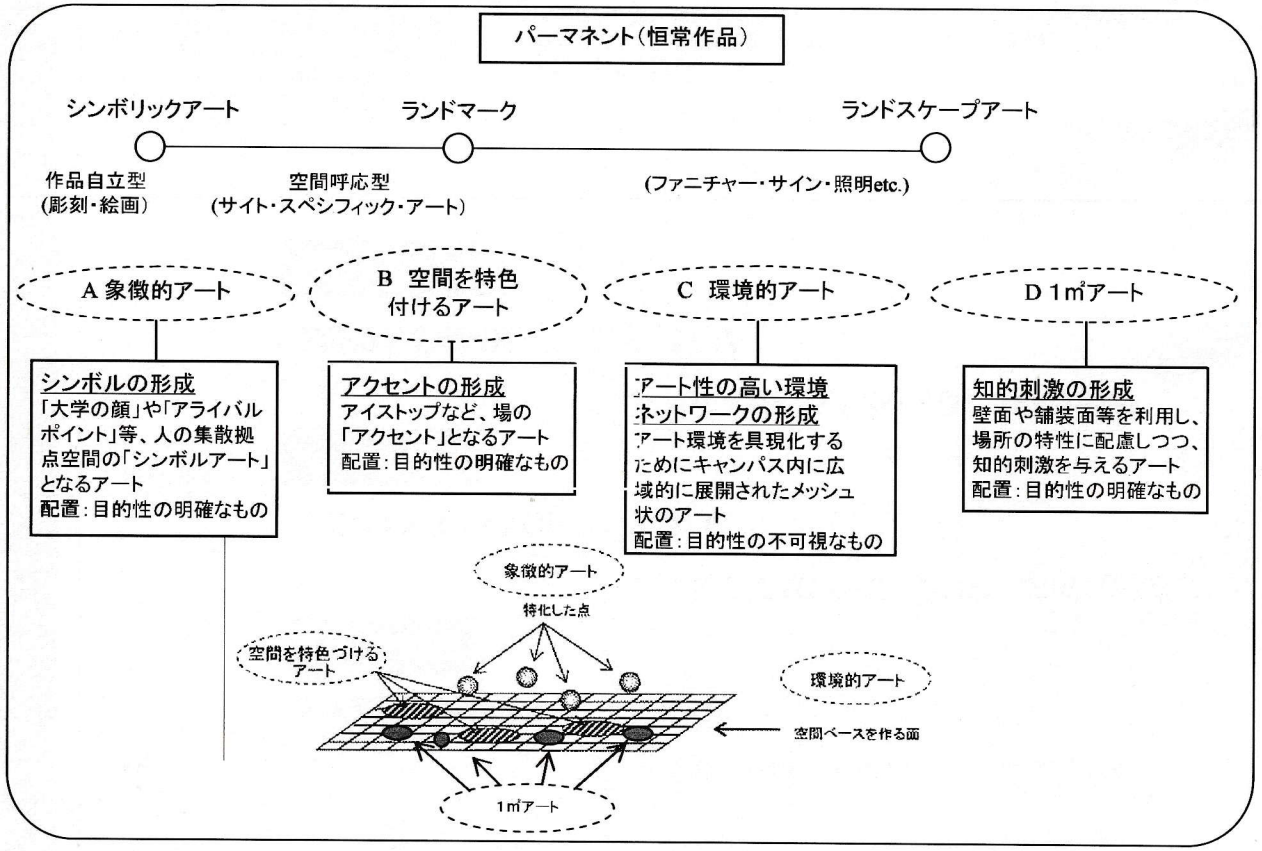
・移転元の箱崎地区、六本松地区等からの記念碑。銅像等もアートワークの対象とする。

②アートワークの目的

・本デザインマニュアルにおけるアートワークの目的の一つは、前述の“本学・キャンパスの理念を表象する”ことであるが、これに加えてアートの属性面より、つぎの3点が目的として挙げられる。

1. 知的活動を触発することや感性の刺激等、人に能動的な心理作用をもたらす側面
2. やすらぎ、潤いを与えること等、どちらかと言えば受動的な心理作用をもたらす側面
3. 以上と重複して、場の特定やランドマークとしての機能

・以上から、アート環境の創出を図るためには、前述の構成をベースに、それぞれの空間の特性に即してアートワークの属性を付加することにより、アート環境の形成を図ることとする。



◆アートワークの種別と構成

アートワークには、空間から独立した形体のもの、そして空間をつくる要素となる環境的な形体のものがある。さらに周辺環境のなかで突出した表現(色彩・素材・形態等)から、調和的に溶け込むような表現等、多様な展示手法が考えられる。

このマトリックスは、アートワークが空間において展開するあり方を横軸とし、作品形態のあり方を縦軸として、下記の4つのカテゴリーに分類する。

A. 作品自立型(彫刻・絵画等)

「独立」彫刻。それ自体の自立的、美的価値によってのみ評価される作品
媒体は、金属(ブロンズ・スチール等)や石、FRP、ペインティング、クラフト系素材等の一種および2種程度のものが多い

B. 環境構成型作品(インスタレーション、含機能性等)

作品が、周辺環境と呼応し、それ自体のみでは完結していない相互関係(空間性、歴史性、地域性等)の上に成り立っている表現
媒体として、単種であることもあるが、多種の組合わせが多い。色彩、形態、表現方法のバリエーションにより、多様に表現展開する

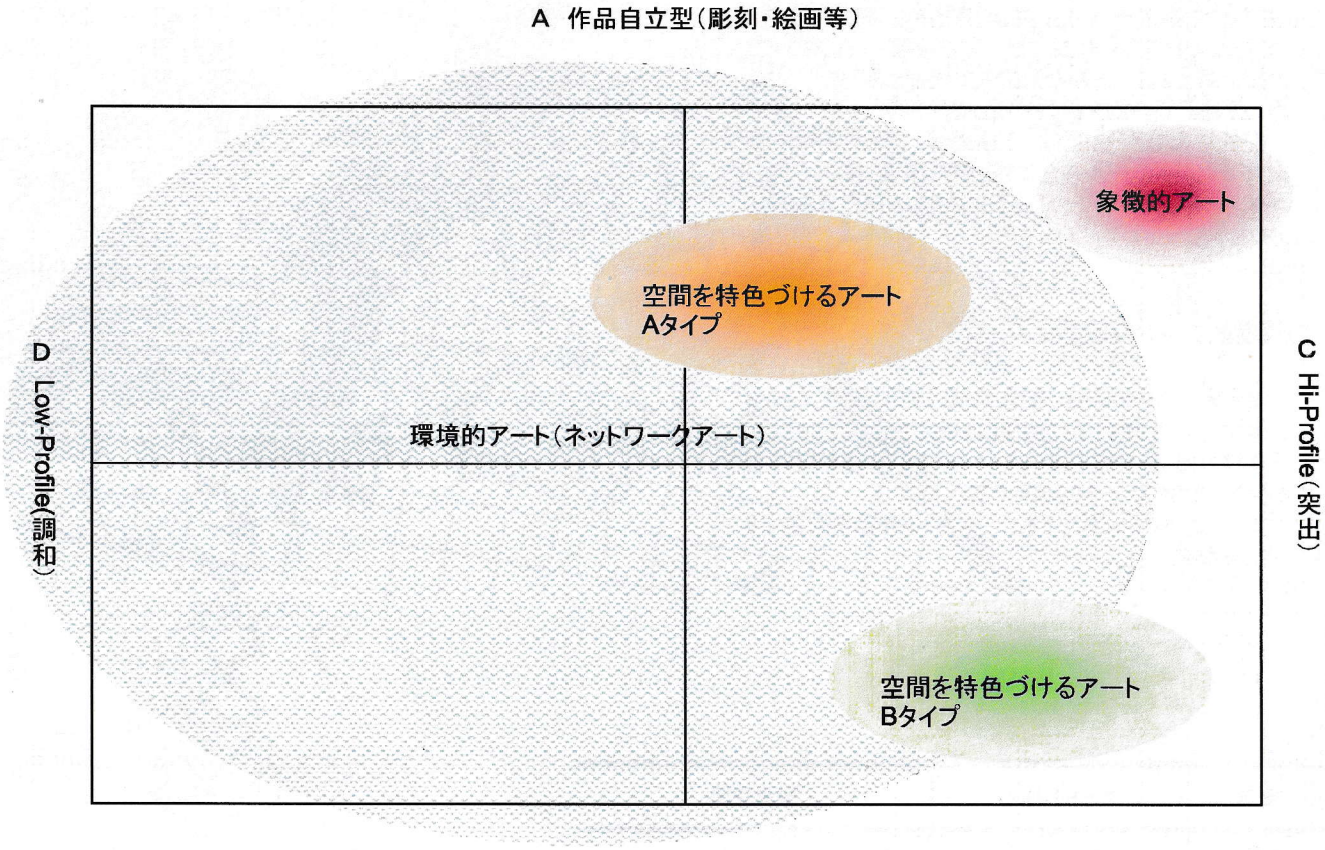
C. Hi−Profile(突出)

作品が周辺環境のなかで、顕著な現われをし、そのことによって空間の均質性を異化し、変容するもの
環境のなかで色彩、素材等が対峙関係をとり、目立つものとなる

D. Low−Profile(調和)

環境と融合、拮抗する関係を築き、固有性の強い空間において、場のもつ特性を強めていく
形態、色彩、素材等が周辺環境から遊離せずに、調和関係をつくりだす

パブリックアートのマトリックス



①目的の明確なアートの配置イメージ

「目的の明確なアート」は、前述の全学を表象するような象徴的なアートの他、たまり空間や広場空間を特色づけるものも考えられる。また、複合系アートも多くがこの類に属するが、それぞれ固有の機能が優先されるため、別途配置計画を検討するものとする。

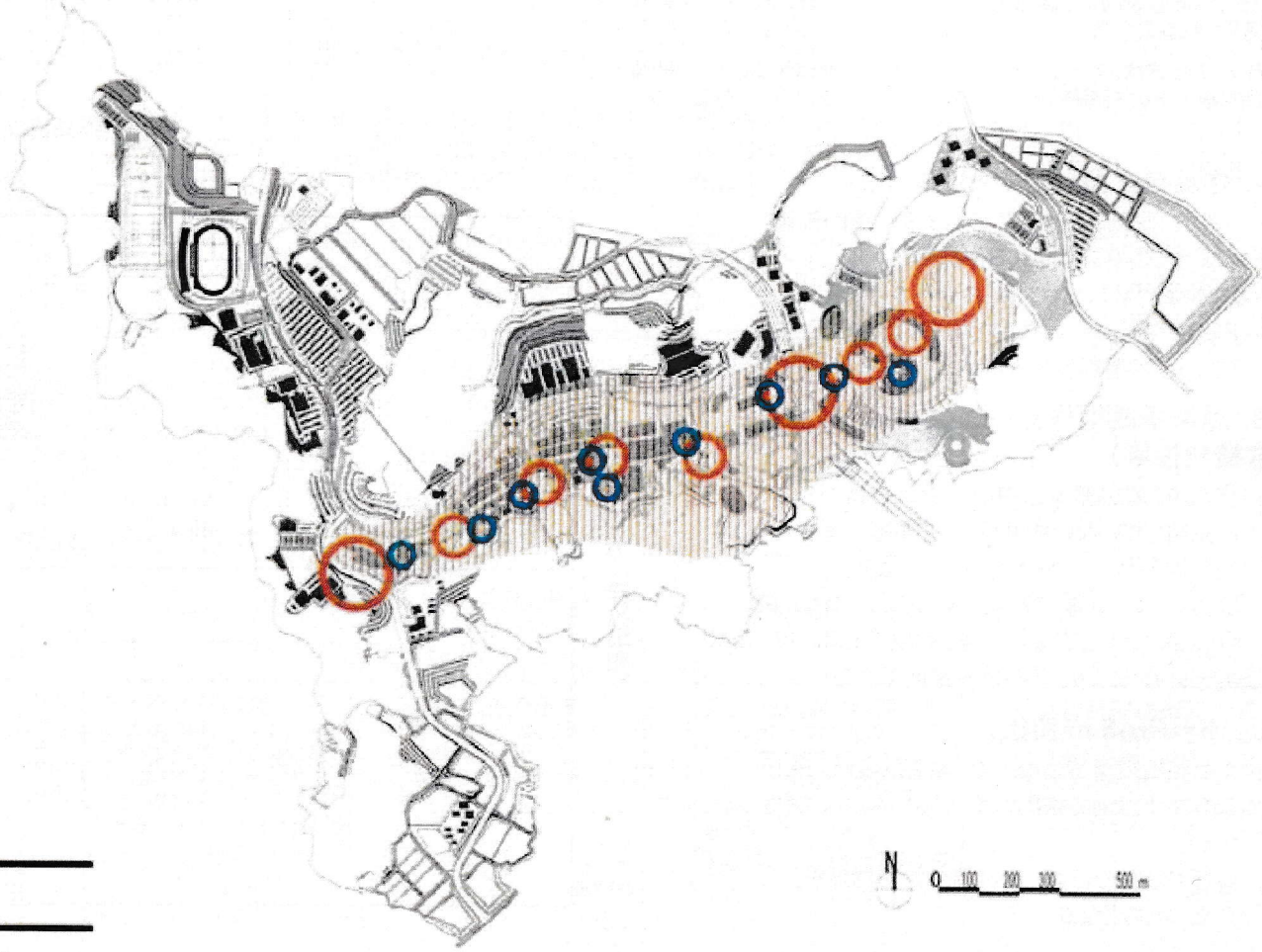
配置対象空間としては、大学の顔、アライバルポイント、キャンパスモールのたまり空間や広場、キャンパスコモン等となり、アートの種別との対応関係は次の表のようになる。

②環境的アートの配置イメージ

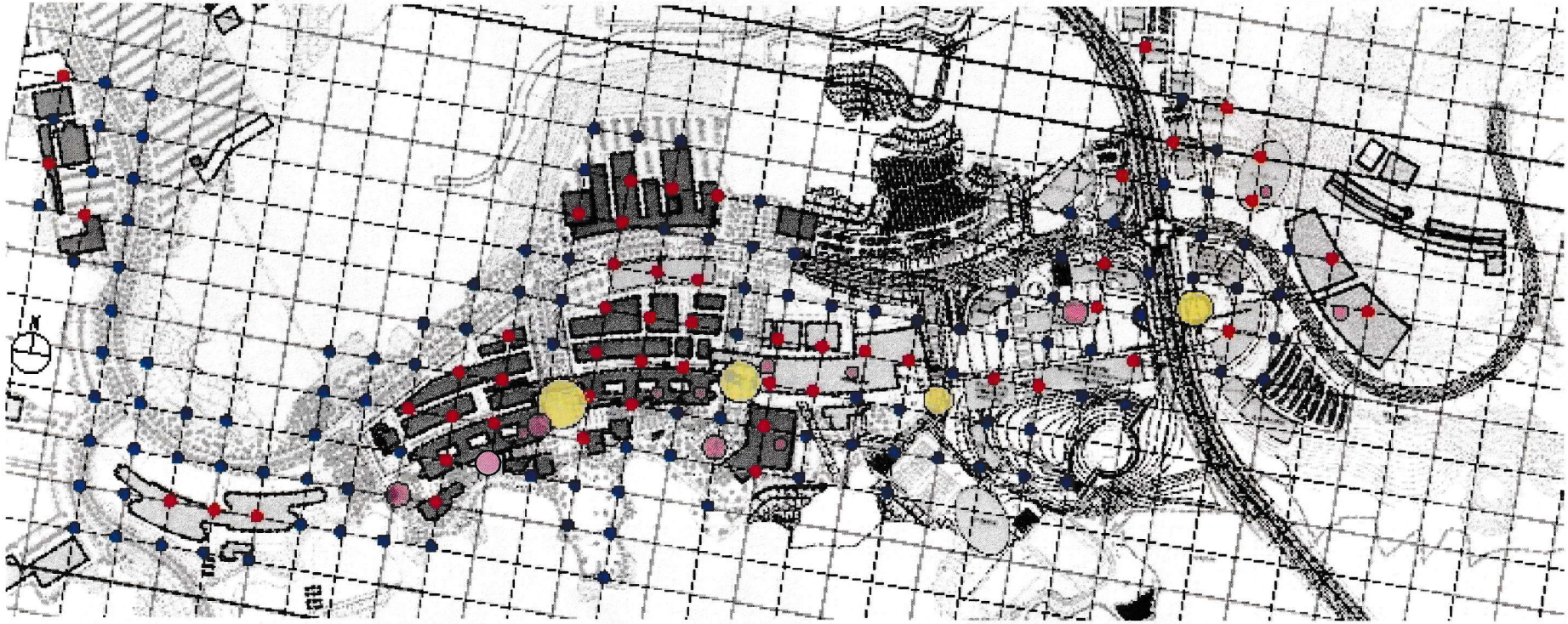
環境的アートの場合、配置位置は原則としてメッシュによるため、土地利用に関係なく設定される。このため、その場の機能・特性を踏まえつつ、空間に意外性や豊かさをもたらすアートを配置する。

人々は、メッシュをたどることでアート作品を回遊できることとなる。

表示	アートの種別	対象空間
○	象徴的なアート	大学の顔、アライバルポイント
○	空間を特色づけるアート	キャンパスモール、キャンパスコモン 研究棟のホール等
▨	環境的アート	



◆新キャンパスにおけるアートワーク配置のイメージ



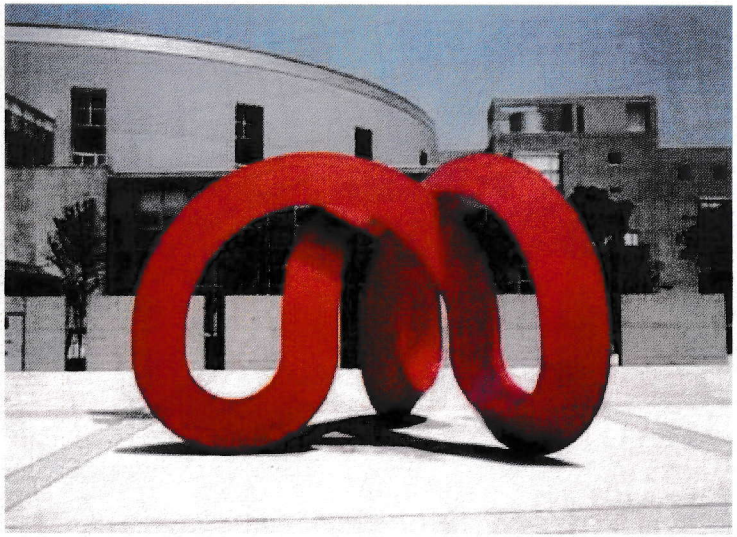
◆アートワークの配置イメージ

・センター地区・コミュニティ広場の中心を「原点」とする東西南北50m間隔のグリッドを基準として、
アートを配置した例
・『サイン』システムの“アドレス表示”と連携したものとする。

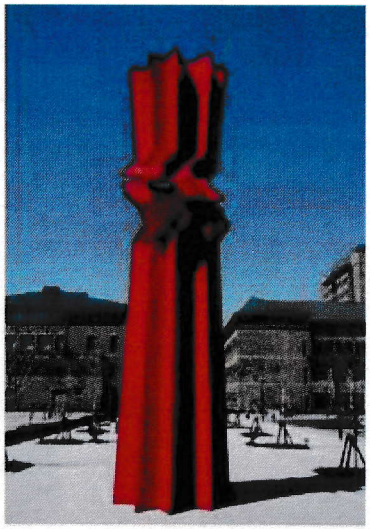
象徴的アート
空間を特色付けるアート
環境的アート(屋外)
環境的アート(屋内)

①参考写真

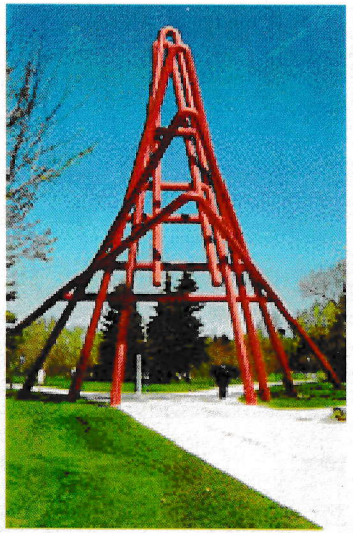
A. 象徴的アート＜抽象彫刻＞



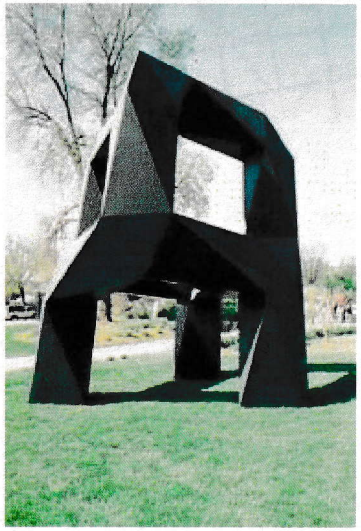
チャールズ・O・ペリー



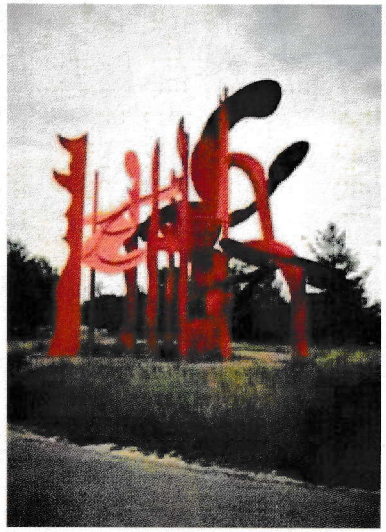
セバスチャン／関西外語大学



ボブ・ボイス／カルガリー大学

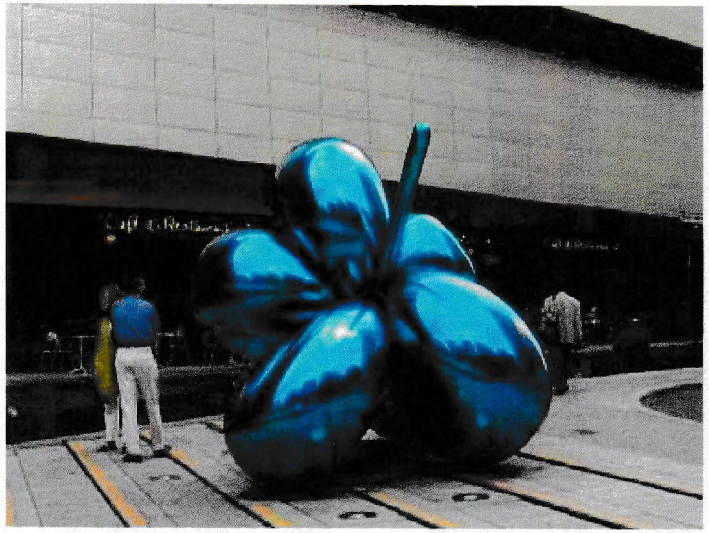


トニー・スミス



アレキサンダー・カルダー

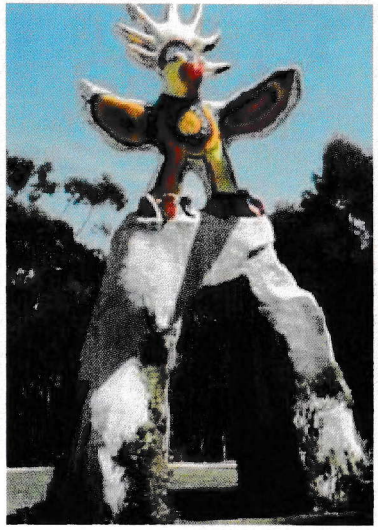
A. 象徴的アート＜半具象彫刻＞



ジェフ・クーンズ



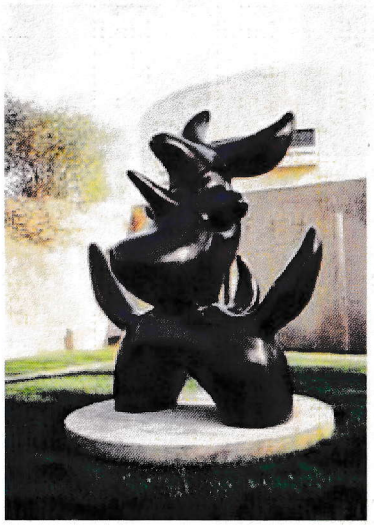
ルイーズ・ブルジョワ



ニキ・ド・サンファル／
カリフォルニア州立大学サンディエゴ校



キース・ヘリング



ホアン・ミロ

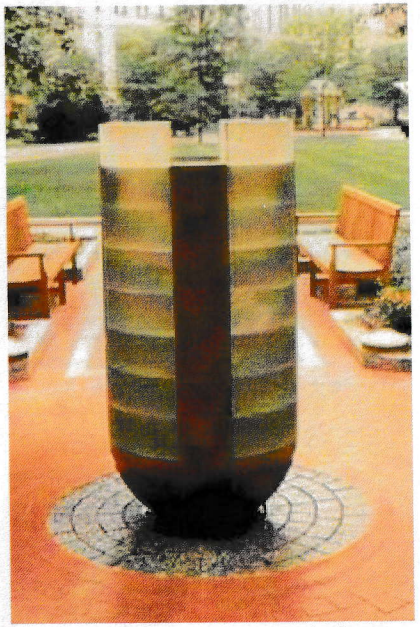
A. 象徴的アート＜環境的展開＞



ジョージ・リッキー



エリン・ジマーマン／ファースト・マーケット・プラザ



ハワード・ベントレ

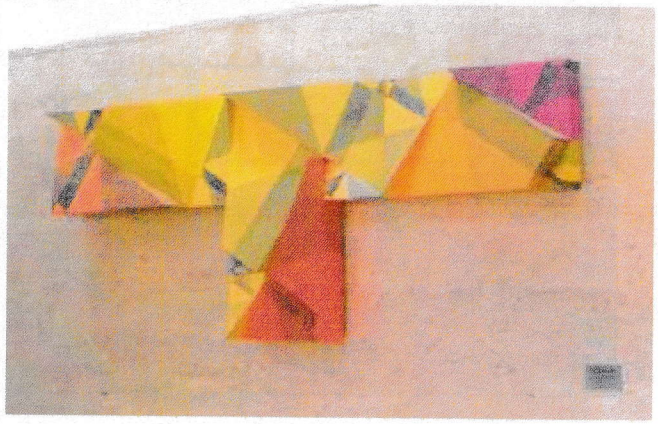
B. 空間を特色づけるアート＜絵画・レリーフ＞



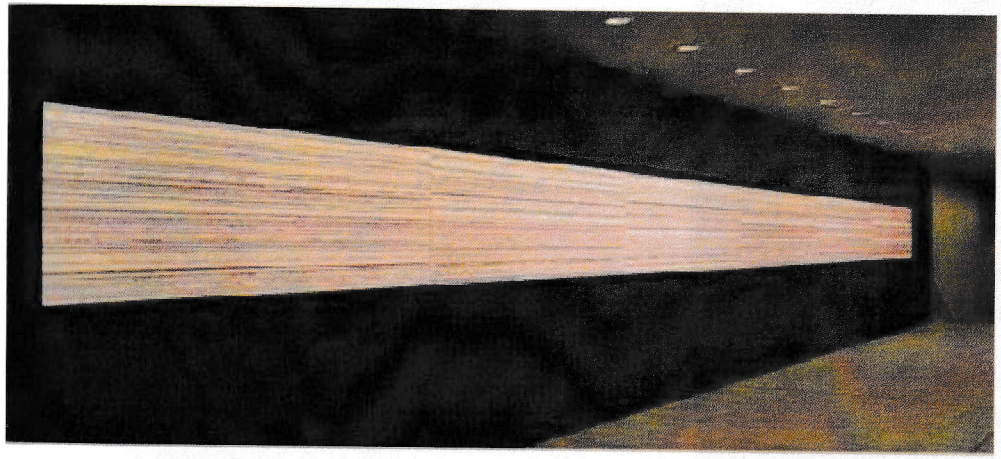
リタ・アルバカーキ／東京外国語大学



田窪恭治／ラフレさいたま



江上計太／ゲートシティ大崎



五十嵐威暢／東京外国語大学

B. 空間を特色づけるアート＜壁面・天井＞

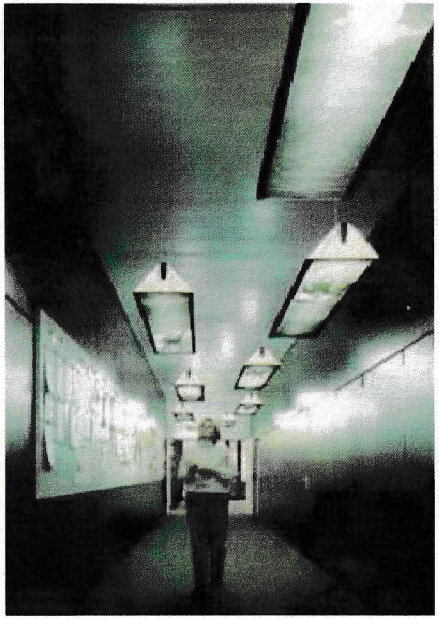






マサチューセッツ工科大学　フィットネスセンター



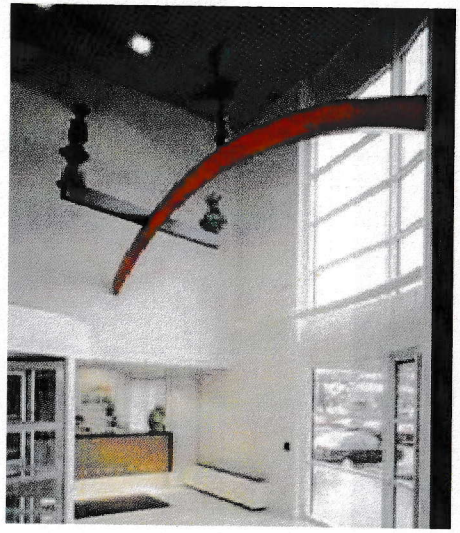


サビナ・カマール

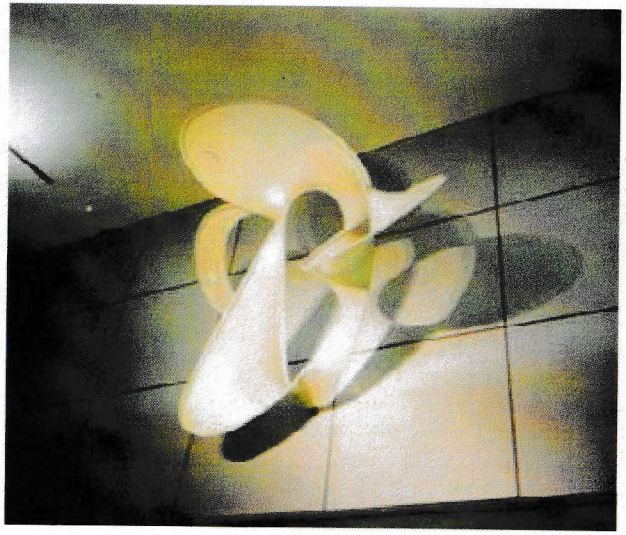
B. 空間を特色づけるアート＜ミクストメディア・立体＞



ウォルター・デ・マリア／ダイムラー・ベンツ　本社ビル



ピアール・ベネマン

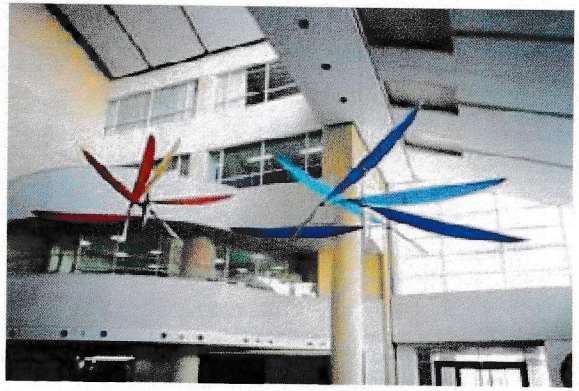


細井篤／新潟スタジアム

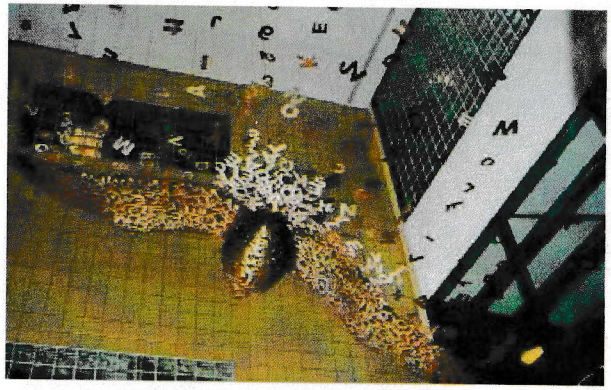
B. 空間を特色づけるアート＜吊彫刻＞



豊嶋敦史／伊丹文化会館

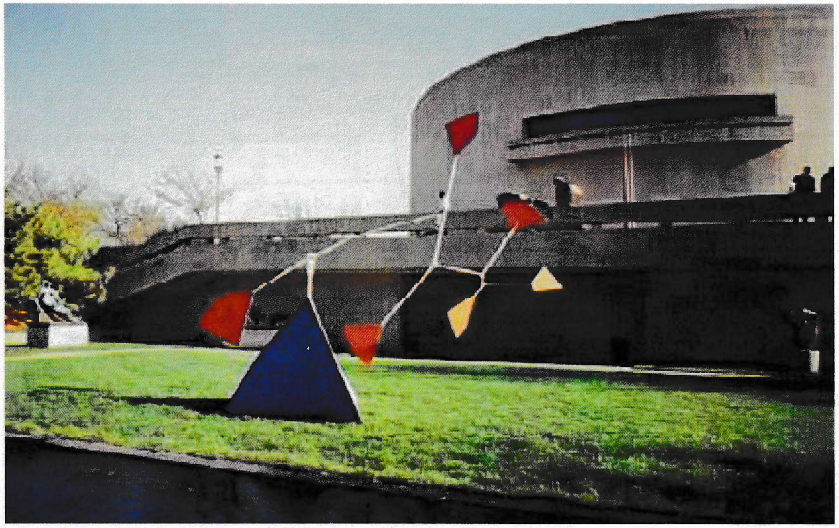


高田洋一／国立成育医療センター

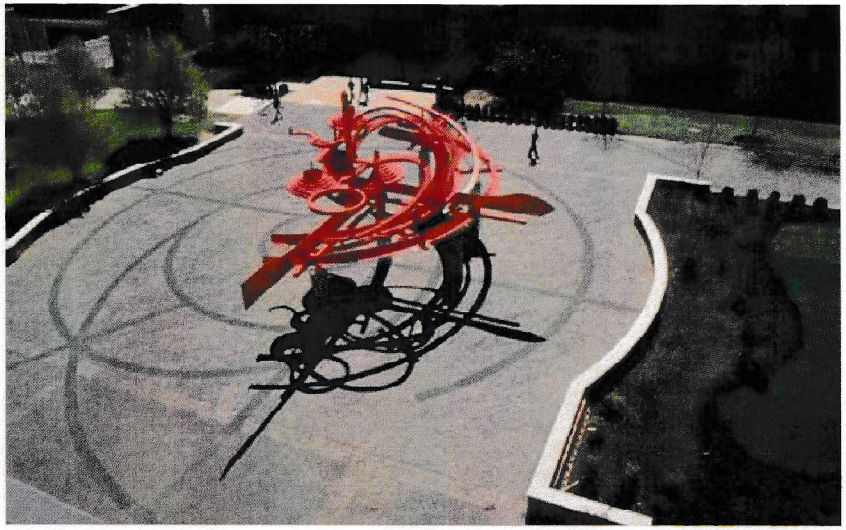


ラルフ・ヘルミック＆スチュワート・セッツァー／
レオン・ゴールドスタイン・サイエンスハイスクール

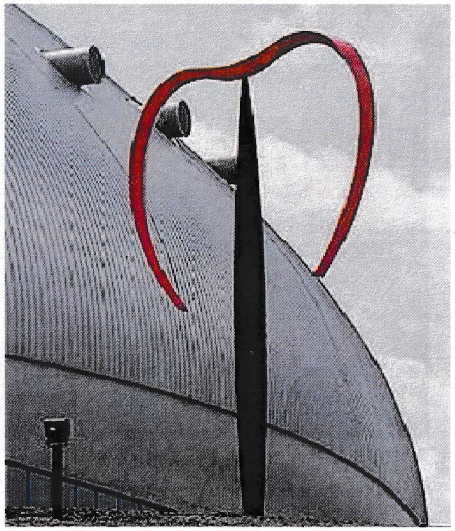
B. 空間を特色づけるアート＜屋外＞



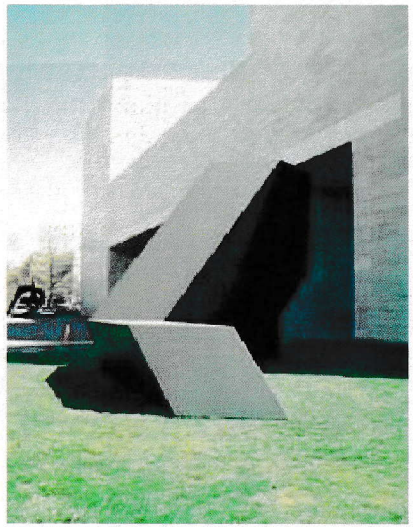
アレキサンダー・カルダー

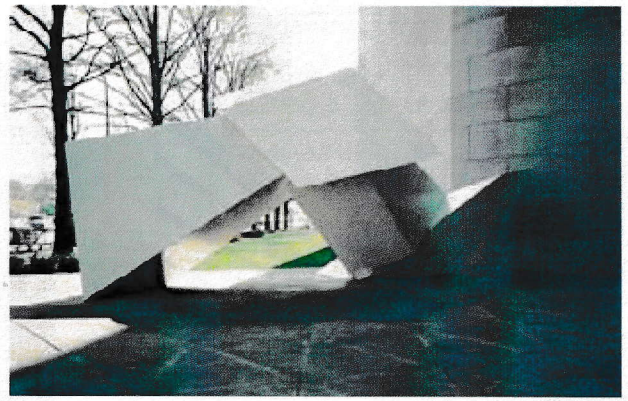


ライト・ステイト大学



田中信太郎

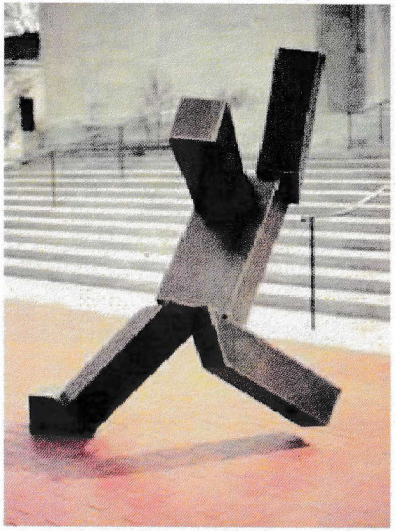




トニー・スミス

B. 空間を特色づけるアート＜屋外＞



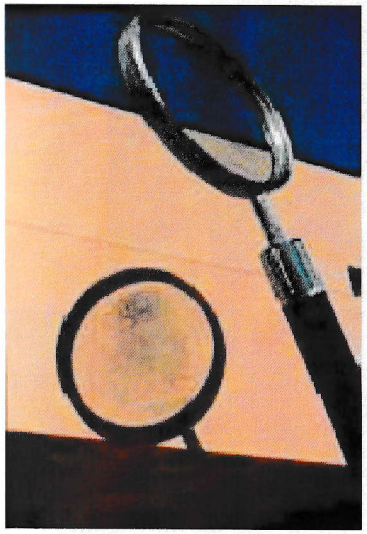


ジョエル・シャピロ

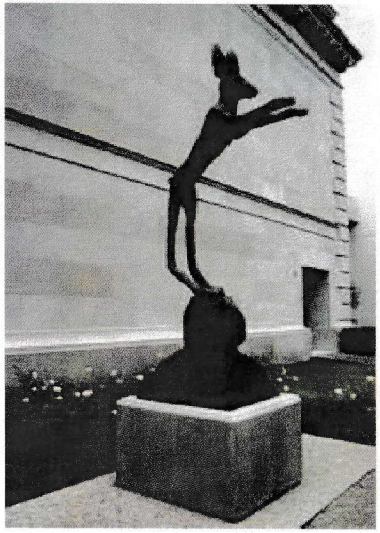


クレス・オルデンバーグ

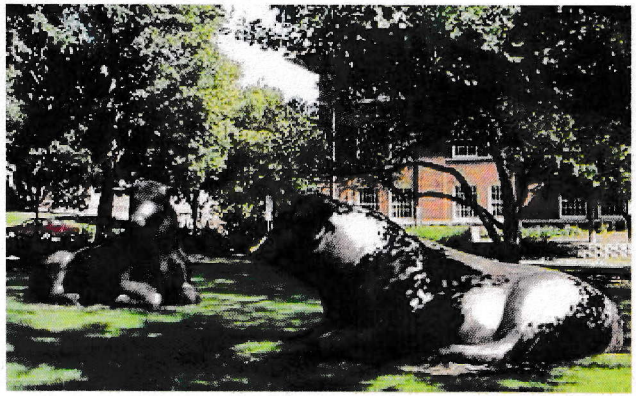




キャサリン＆ハワード・ミーハン/
メトロポリタン犯罪科学センター

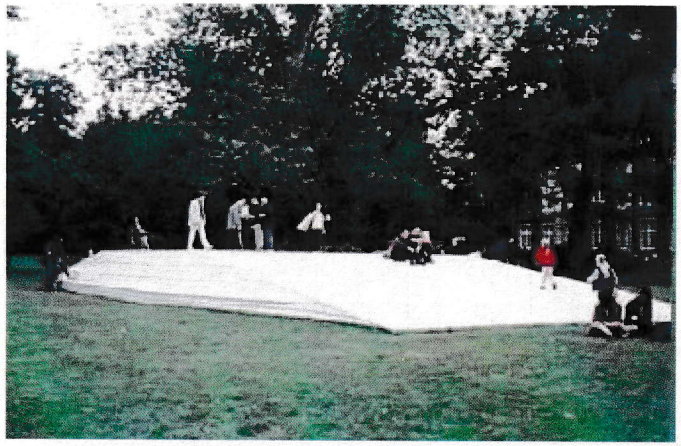


バリー・フラナガン





B. 空間を特色づけるアート＜環境的展開／ベンチ＞





バート・サイス



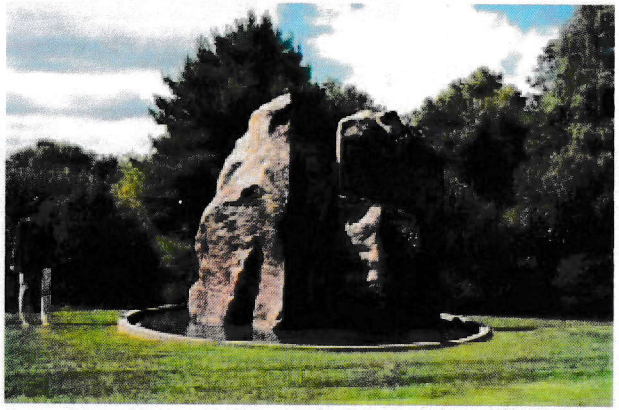


バーバラ・グリュガティス

B. 空間を特色づけるアート＜環境的展開／自然石・水の演出＞



リチャード・ロング／有楽町国際フォーラム





エリン・ジマーマン



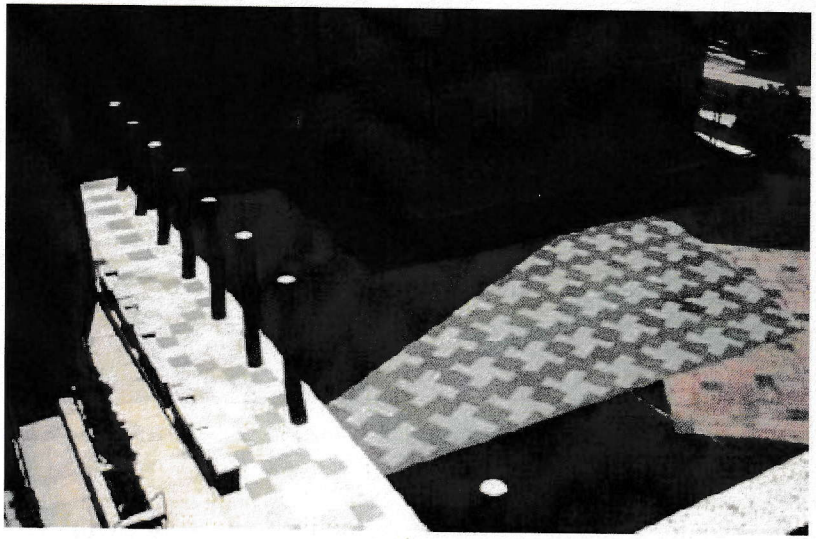
アナ・バレンティーナ・モーチ／クイーンズ・シビック・コート

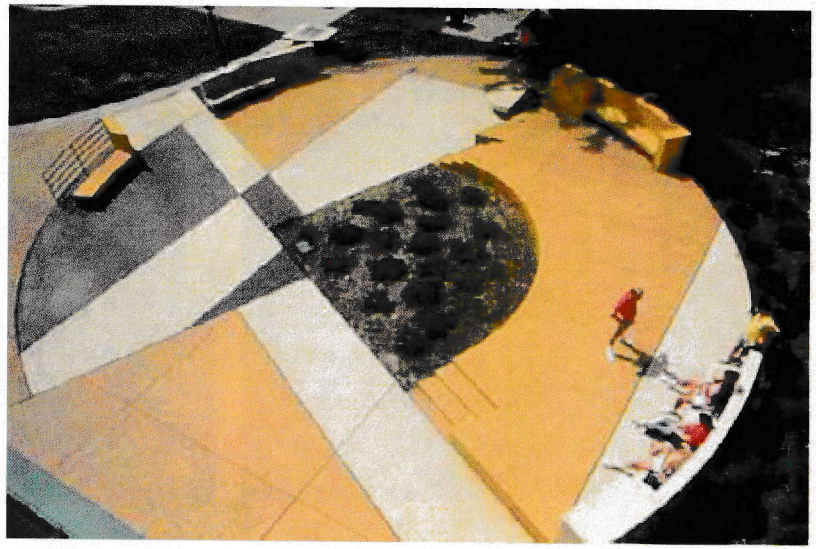
B. 空間を特色づけるアート＜ペイブメント＞





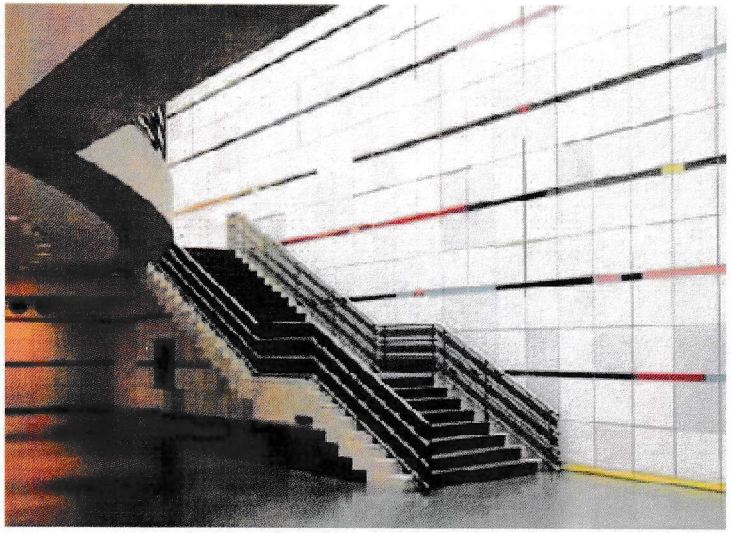
アリス・アダムス／デラウェア大学





アンドレア・ブラム

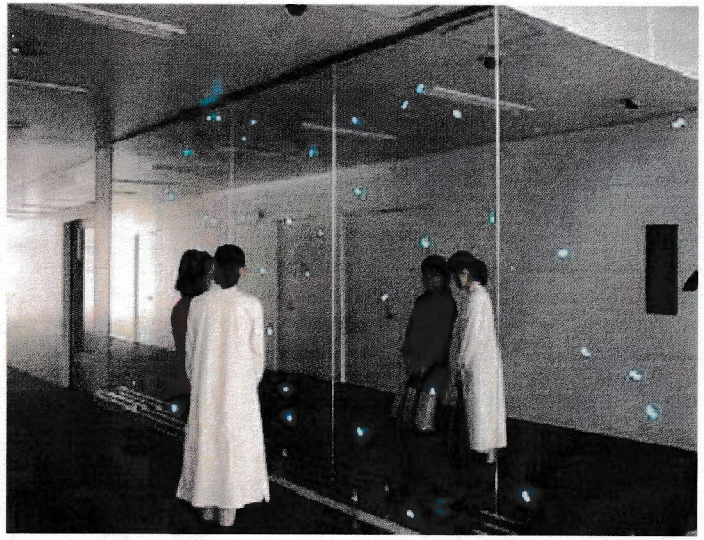
C. 環境的アート＜屋内壁面＞

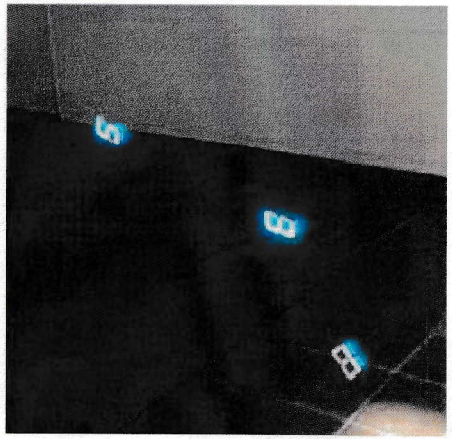




ケネス・ノーランド（壁面）
スコット・バートン（ベンチ）／マサチューセッツ工科大学





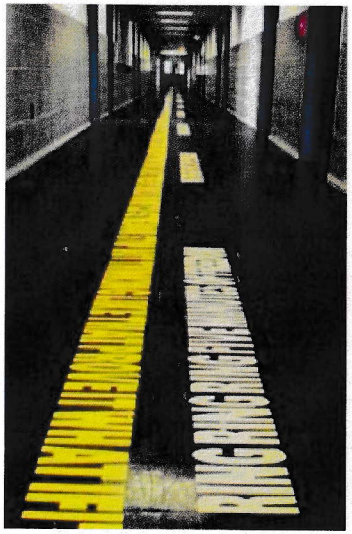


宮島達男／埼玉県立大学

C. 環境的アート＜屋内床面＞

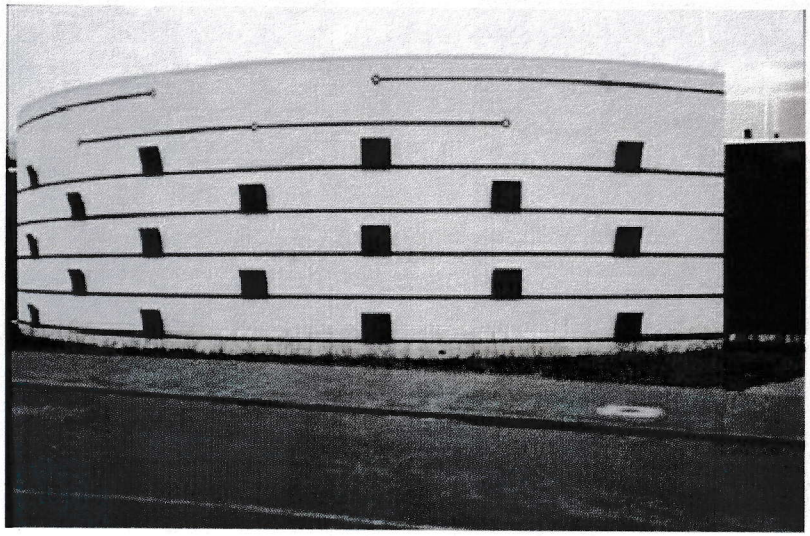


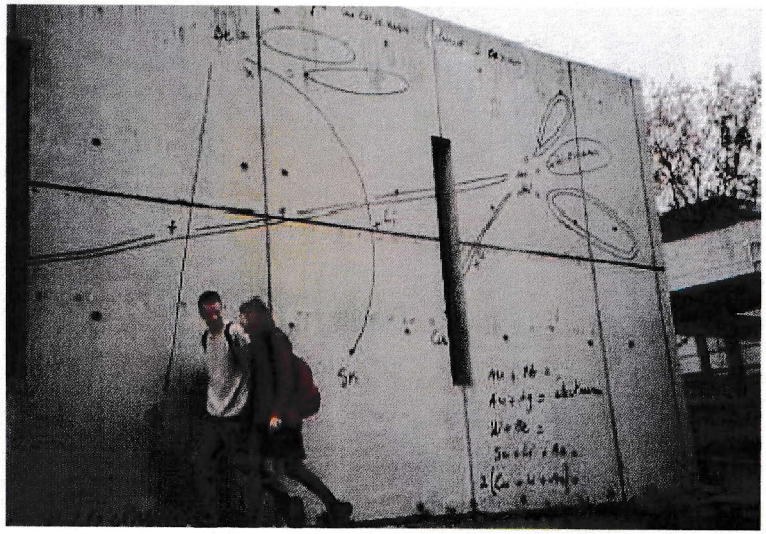
リチャード・テキシー



ナンシー・ドワイヤー

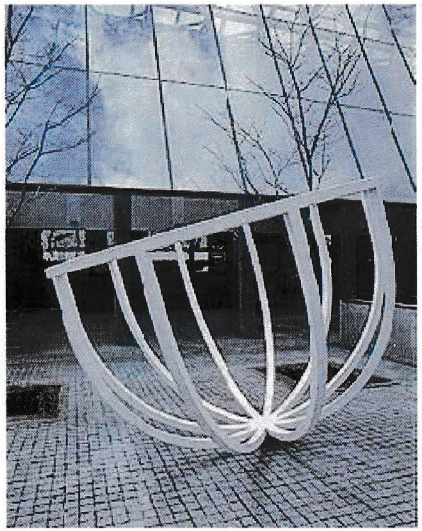
C. 環境的アート＜屋外壁面＞

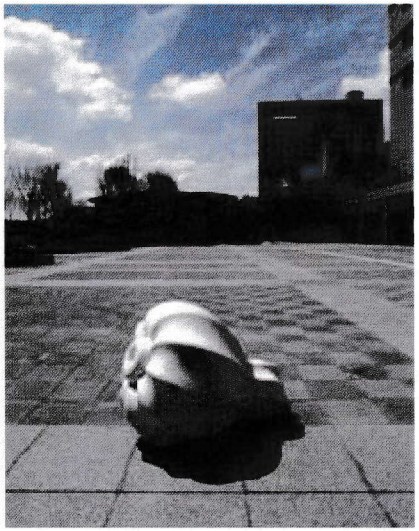




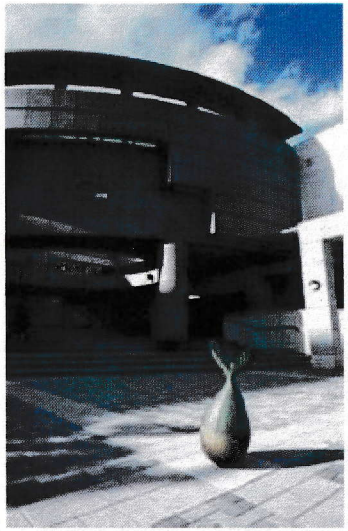
クレア・ルデンコ・ベルティン

C. 環境的アート＜屋外彫刻＞





磯﨑真理子／さいたま合同庁舎

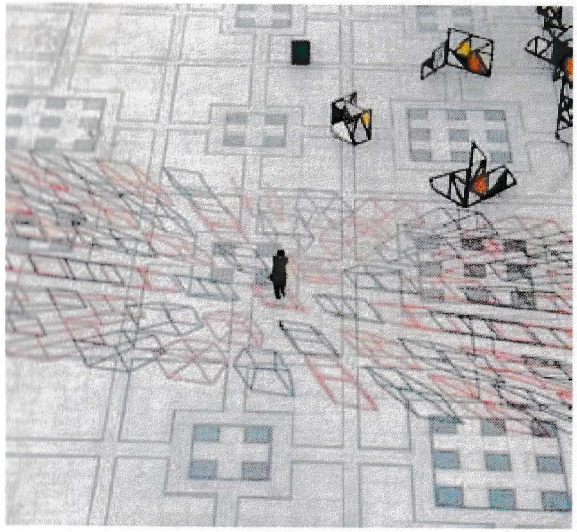


松田重仁／三芳町文化会館

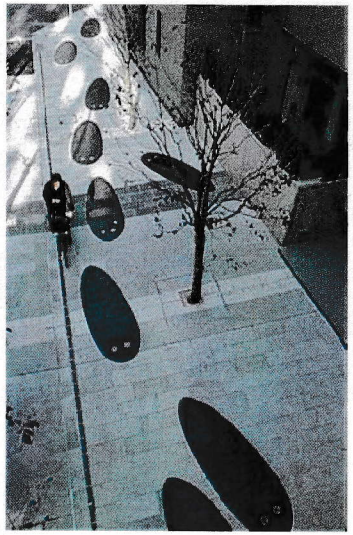




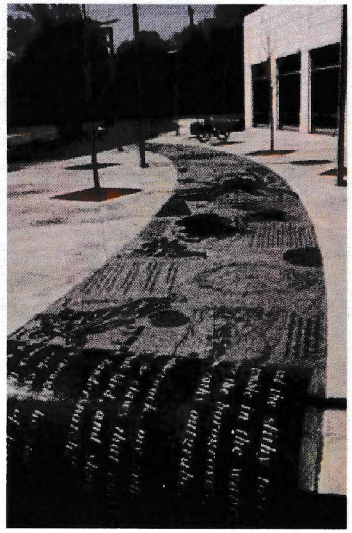
C. 環境的アート＜ペイブメント＞



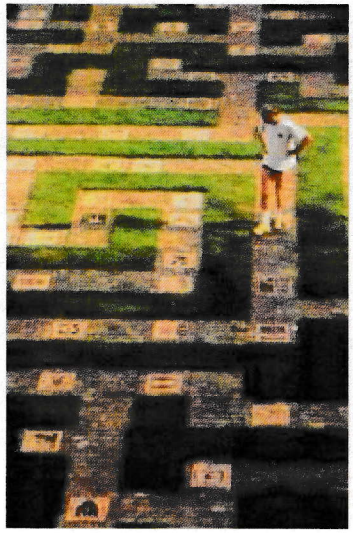
江上計太



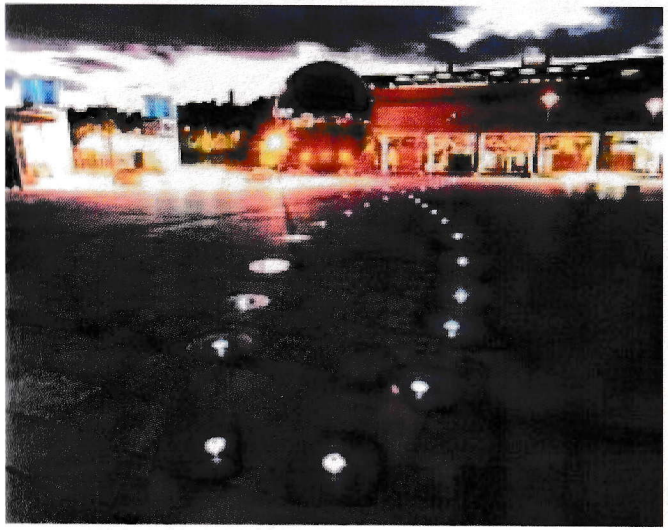
大岩オスカール幸男

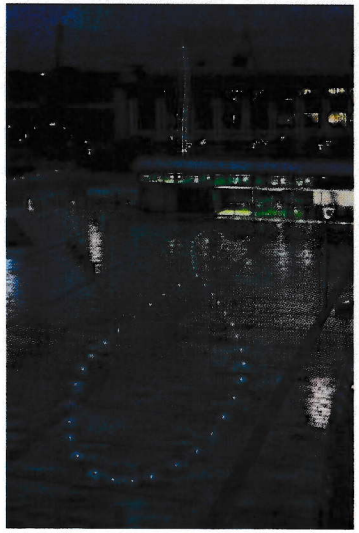


ブラッド・ゴールドバーグ他／
シェルビー公立図書館



ラリー・カークランド／
ウォーターフロント・ガーデン





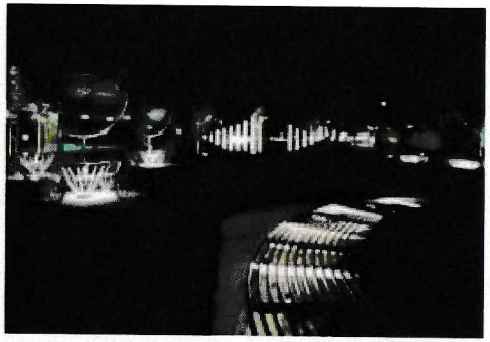
デイヴィッド・ワード／ブリストル



マリオ・メルツ

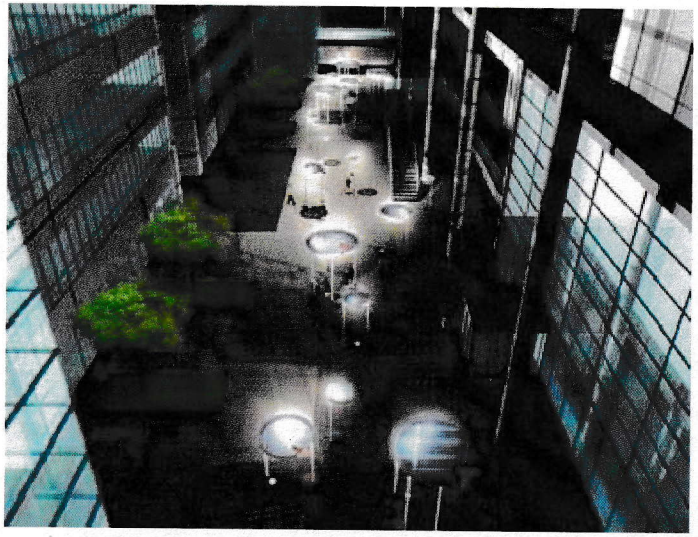
C. 環境的アート＜ベンチ・パーゴラ＞

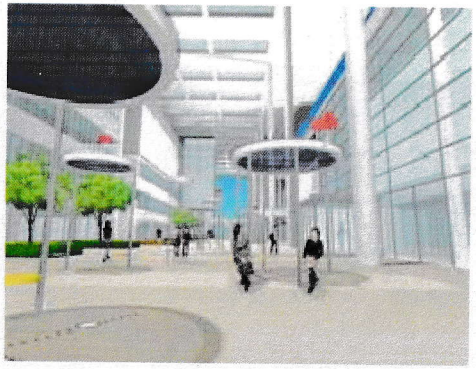




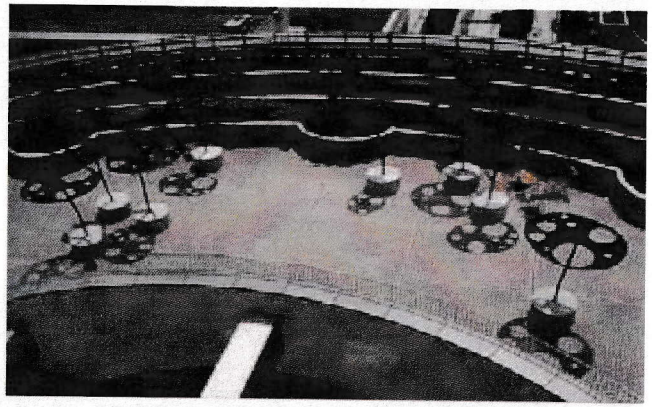
アンナ・バレンティーナ・マーチ





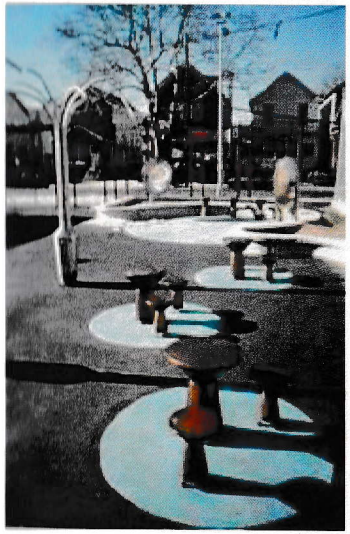


SLL

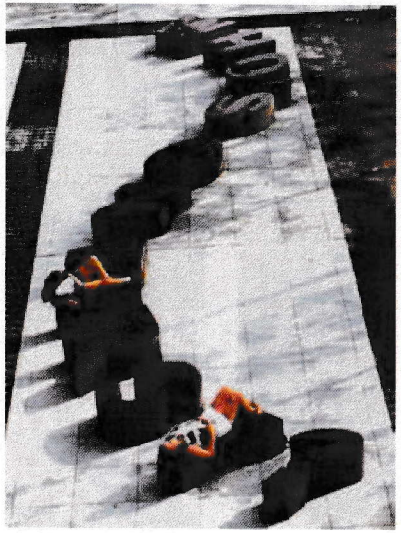


豊嶋敦史／ラフレさいたま

C. 環境的アート＜ベンチ＞



ビル＆マリー・ブシェン



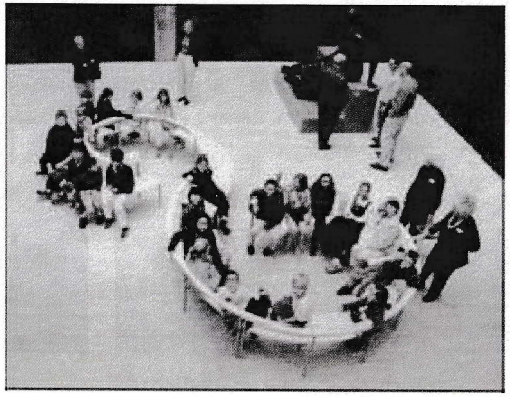
ナンシー・ドワイヤー





リチャード・フレイシュナー／
マサチューセッツ工科大学





ラングランズ＆ベル



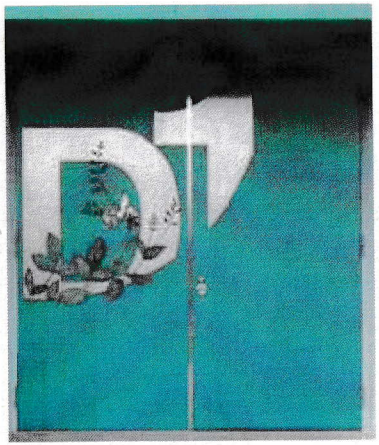
ラングランズ＆ベル



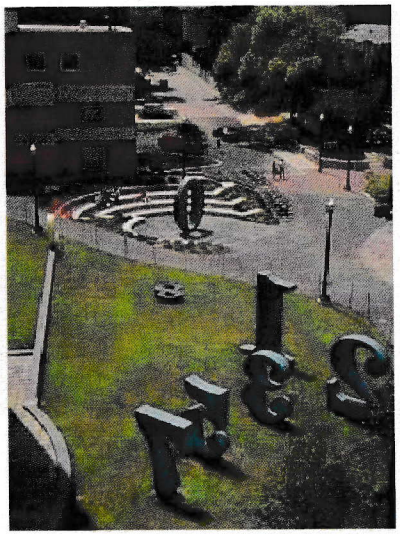
バート・サイス

C. 環境的アート＜サイン＞





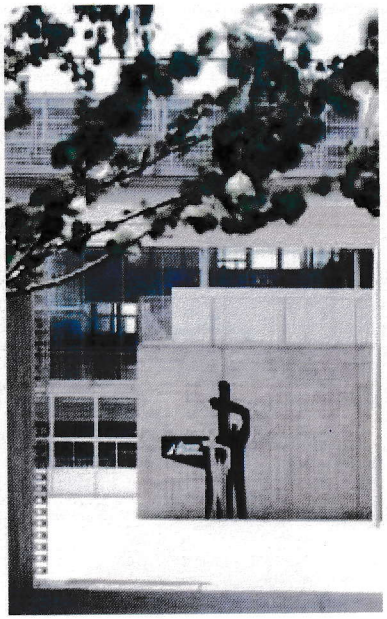
豊嶋敦史

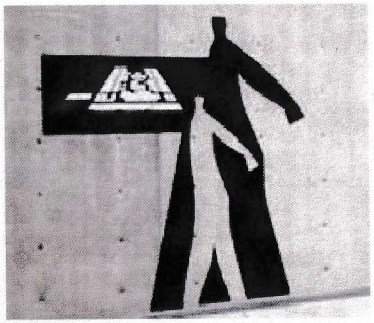




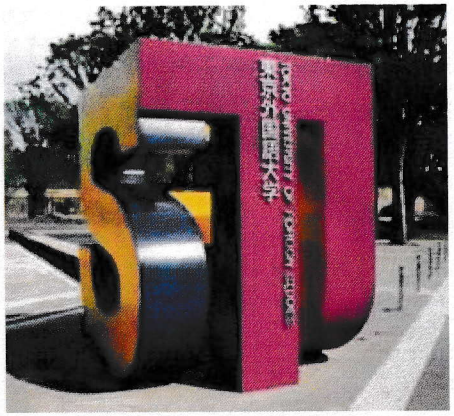


バーバラ・グリュガティス／オハイオ州立大学





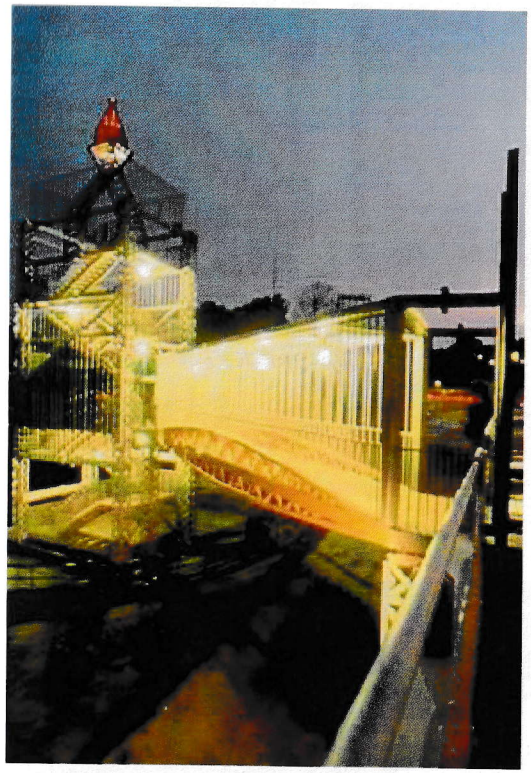
舟橋全二／埼玉県立大学





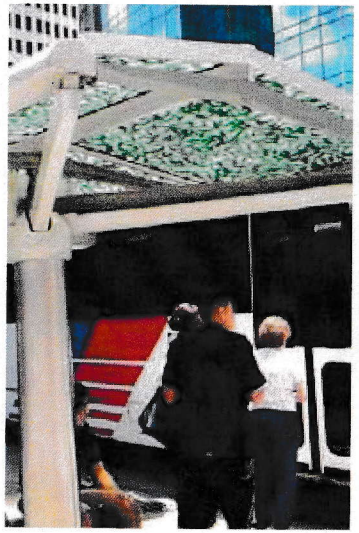
エントランス・サイン・モニュメント
豊嶋敦史／
東京外国語大学

C. 環境的アート＜ブリッジ・バス停＞

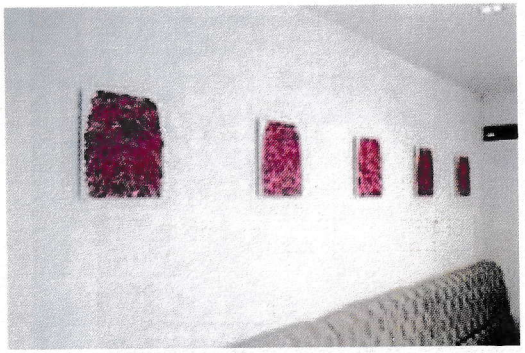


シャー・アルマジャーニ

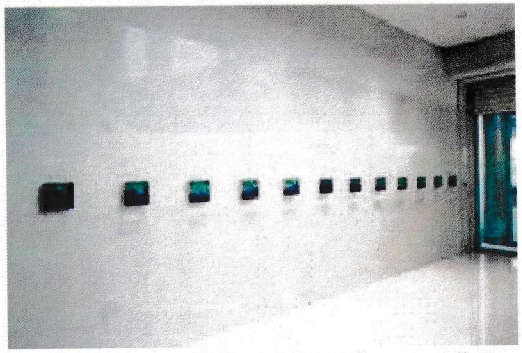




D. 1平米アート＜平面作品＞



東恩納裕一／ホテルブリランテ武蔵野

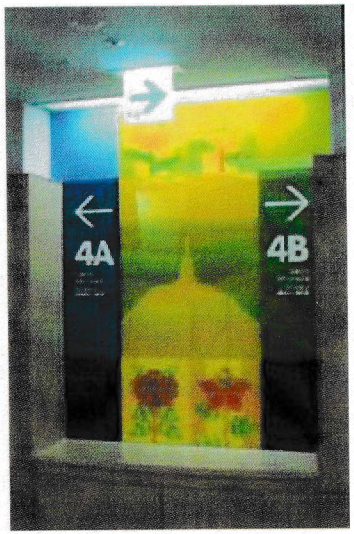


鳥飼京子／ホテルブリランテ武蔵野





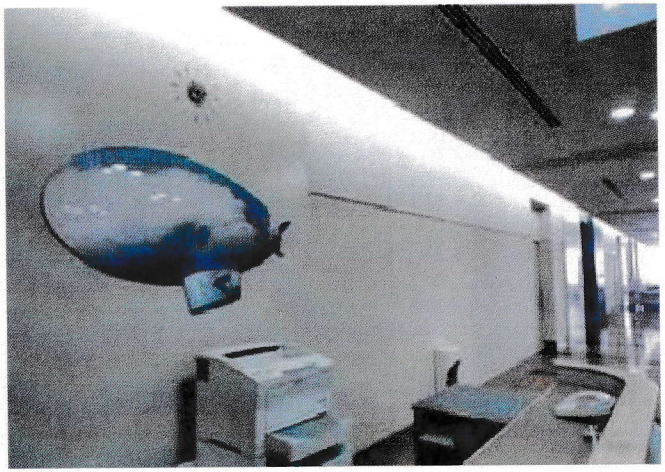
＜屋内サイン＞

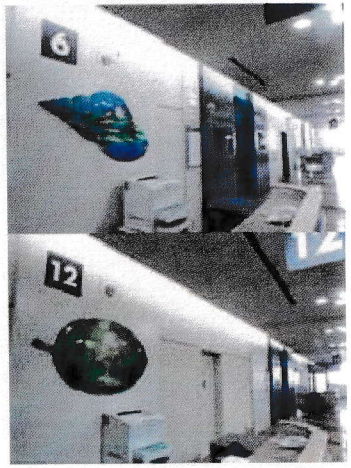






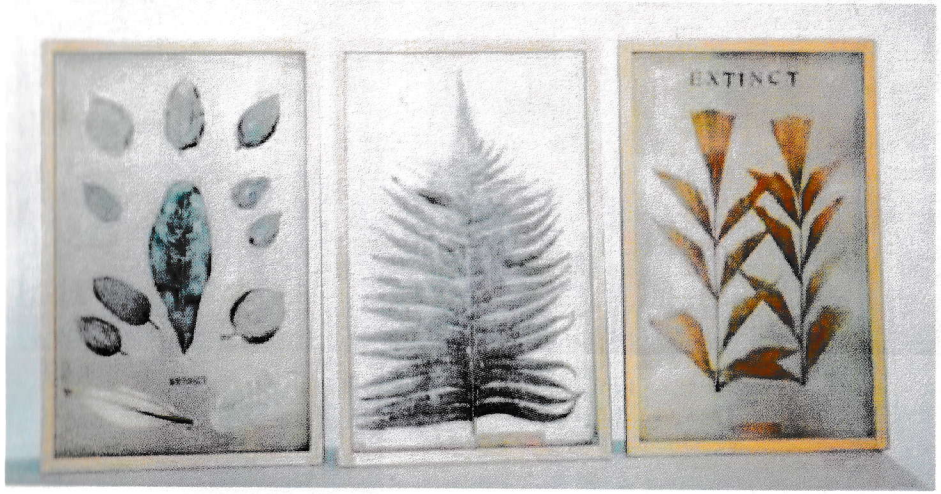
はせがわさとし／東海大学八王子病院



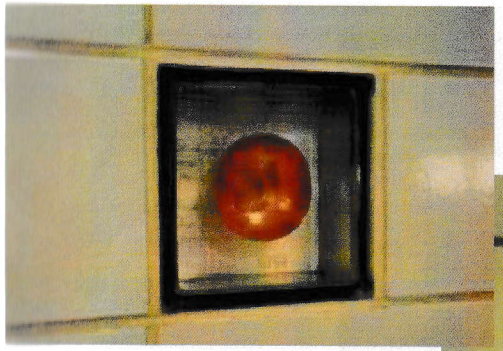


竹内オサム／東海大学八王子病院

D. 1平米アート＜コミュニティアート＞



学生が収集した植物を使ったアートワーク　　ミッシェル・スチュワート





地域の歴史的なオブジェや特色を表すものを収集し、そのオブジェを考えるヒントになるテキストを組合わせ、建築全体に散りばめたアートワーク

クリスティン・ジョーンズ＆アンドリュー・ギンゼル

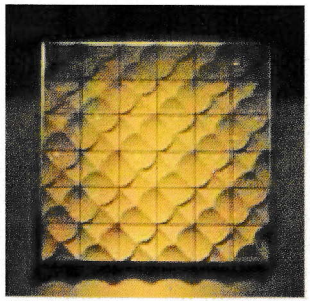
＜写真＞

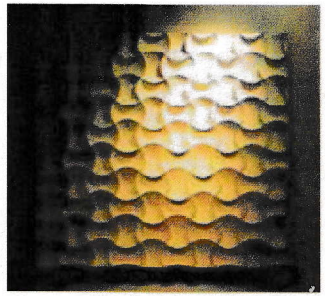


廣瀬智央／名城大学

＜陶板＞

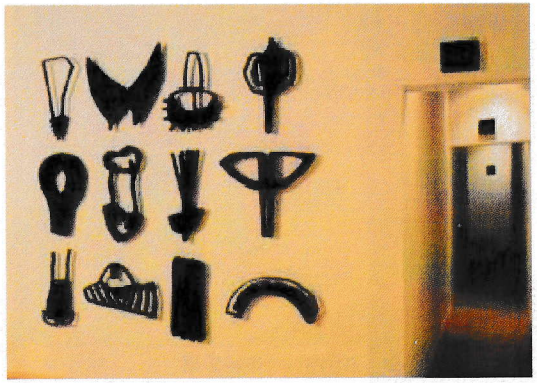




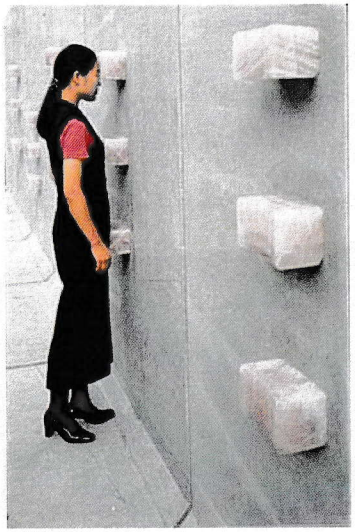


黒河兼吉

D. 1平米アート＜レリーフ＞



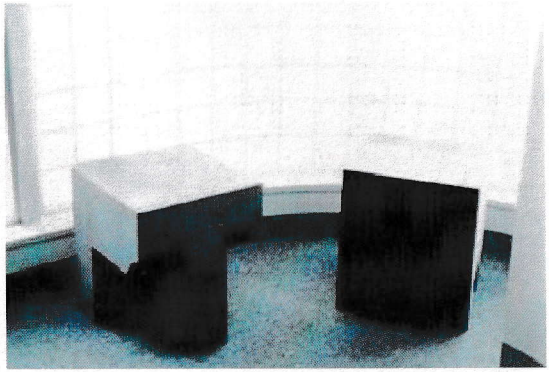
ボド・コーシン



マリナ・アブラモヴィッチ

＜ベンチ＞





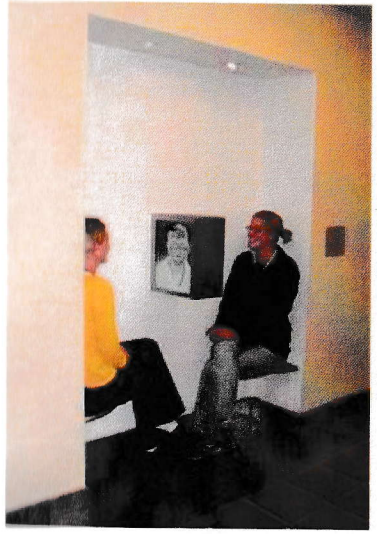
リリアナ・モロー

＜バス停の壁面を利用する＞



ウィナンダ・デルー

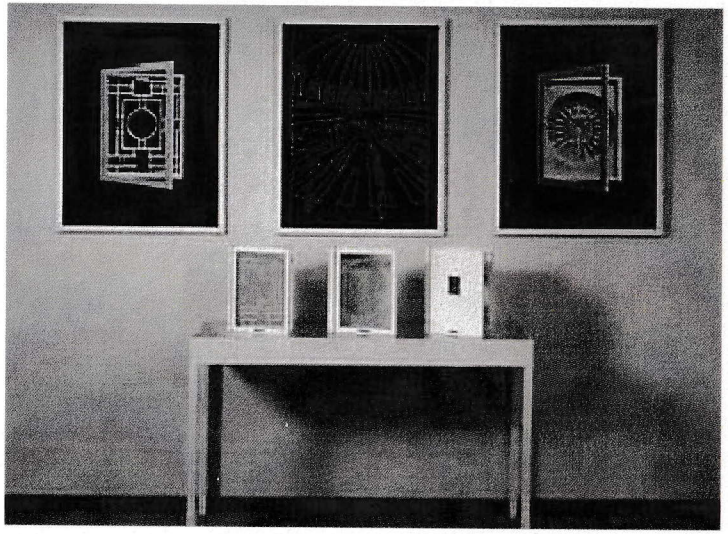
D. 1平米アート＜インタラクティブアート＞

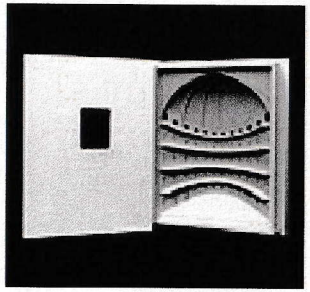




ジャネット・ツバイク／ミネソタ大学

＜建築図面＞



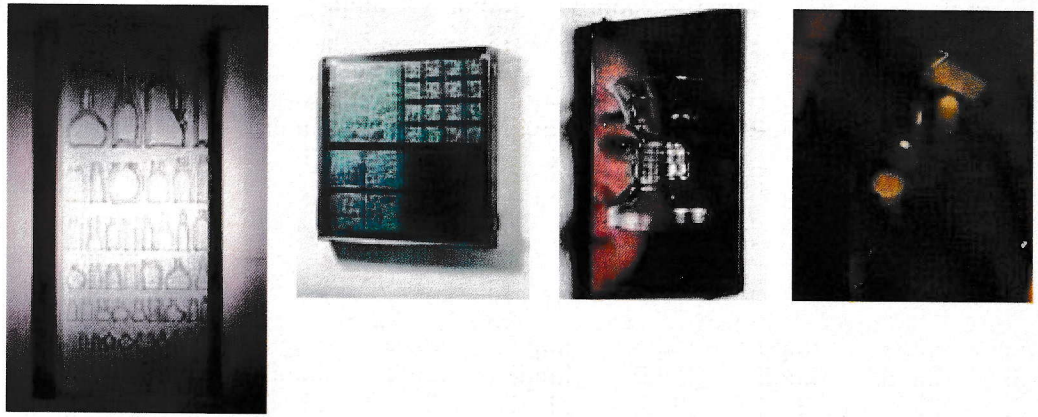


ラングランズ＆ベル

＜アジアのテキスタイルを額装する＞



＜鏡や学内に特有な素材のリサイクル＞



2. アートワーク導入方式

2-1. 選定基準

2-2. 寄贈依頼作品等の受け入れ規定

2-3. 作品維持管理、移設・撤去に関する規定

2-4. 国内・海外事例

アートワーク評価・選定WGについて

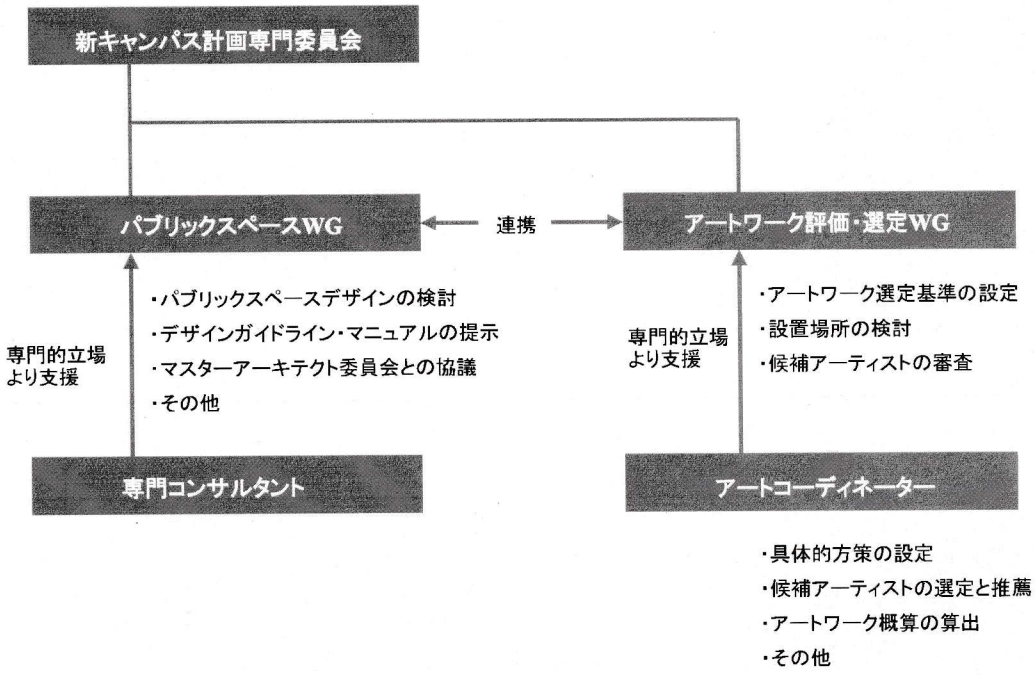
アートワーク評価・選定WG

プロジェクトにふさわしいレベルの高いパブリックアートを作り上げるため、能力のあるアーティストを選定するのがアートワーク評価・選定WGの責務である。委員は、美術専門家（美術館学芸員、美術史家、美術評論家等）、パブリックスペース・ワーキンググループ委員、デザイン専門家、建築家、芸術教育者、大学教員、その他大学関係者によって構成される。また、アートワーク評価・選定WGは、必要に応じて委員を追加することができる。選定基準に基づいてアーティストを決定し、新キャンパス計画専門委員会に報告をする。アートワーク評価・選定WGの主な業務は下記のとおりである。

アートワーク評価・選定WGの主な業務

1. パブリックアートの制作委託作家および作品の選定
2. 作品設置場所の検討
3. 寄贈・遺贈作品の審議
4. 移設・撤去に関する審議
5. 推薦作家及び推薦作品の審議

アートワーク評価・選定WGの位置づけ



2)アートワーク 選定方式の種別の選定基準

アートワーク種別毎の役割を記述し特色を整理した上で、選定基準を規定する。選定基準を満たす「アーティストの選定基準」を設定し、条件を示したなかで適切と考えられる「選定方法」を設定している。パブリックスペース及びオープンスペースに設置されるいかなるアートワークもアートワーク評価・選定WGによる審議の工程を踏む必要がある。また、アートワーク全種別に共通した選定基準として下記の要点を考慮する。

1. 作品の質について

・キャンパス全体がアート性に富む豊な環境の創出に貢献できる芸術作品としての美的質を備えていること。

・一過的ではなく、卓越した永続的な質を保つこと。

2. 地域と大学への適合性について

・アートワークのテーマと関連性をもち、視覚芸術として創造的に進展させている表現。

・設置空間の特色をとらえ、相乗的に表現展開をおこなっている。

・近隣コミュニティに対し開かれた大学を象徴する表現を有している。

・大学の伝統や土地の歴史、文化、人、自然および周囲建造物に関連している表現である。

・学生、研究者、教員、職員に受入れられ、誇りとアイデンティティを与える作品。

3. 物理的適合性について

・作品のスケールが設置空間に適切である。

・作品の形状が観者に危険性をもたらすことがなく、安全性が確保されている。

・使用素材と構造が耐候性を有し、破壊などに対する強度をもつ。

4. その他

・設置期限内に制作が完了する内容である。

・提供予算内で制作・設置完了までおこなえる内容である。

	A.象徴的アート	B.空間を特色づけるアート	C.環境的アート	D.1㎡アート
アートの選定基準	◆象徴的アートは、“大学の顔”となる作品であり、大学の理念を明確に表現する役割を担う。 芸術作品として高い質を保ち、国際的に評価を得ているアーティストを起用することが考えられる。 ◆他の種別のアートワークと比較して、作品のスケールが大きくなることが予想されるため、過去の実績において同規模の作品制作の経験が重要な選定のポイントとなる。 以上の観点より、「象徴的アート」の制作者の選定基準を以下のように設定する。	◆キャンパス内の主要な空間の「アイストップ」となり、空間のアクセントとなる役割を持つ。 ◆空間を特色づけるアートは、象徴的アートに次ぐスケールの展開が予想される。そのため、アーティストとしての実績が重要な選定の基準となる。 ◆屋外および屋内空間への展開が想定されるため、多様な空間の特性を生かしたアート表現を実現できるアーティストが望まれる。 以上の観点より、「空間を特色づけるアート」の制作者の選定基準を下記のように設定する。	◆環境的アートは広域的なキャンパスのアート環境を具現化するために、『アートのメッシュ』に合わせて、土地利用に関わりなく展開する「ネットワーク・アート」の役割となる。 ◆屋外・屋内空間において、独立型・機能融合型（サイン・照明・ファニチャー等）という様々なタイプのアートワークが空間シーンに合わせて予想される。従って作品スケールも、壁面・床・天井・扉等の展開場所によって多様な幅が考えられる。 以上の観点より、「環境的アート」の制作者の選定基準を下記のように設定する。	◆“1㎡アート”は、壁面や舗装面等を利用し、場所の特性に配慮することが求められる。そのため、展開空間特性を踏まえた、アイディアが求められる。 ◆サイエンティフィックなイメージや建築図面、著名作家によるファニチャー等、見る者に知的刺激を与えるアートワークとするため、美術系に限らず、幅広い分野において創造性に富んだ表現物が対象となる。 以上の観点より、「1㎡アート」の制作者の選定基準を下記のように設定する。
アーティストの選定基準	パブリックアートの実績があり、作品が国際的評価を得ている国内外のアーティスト	実力と実績がある国内アーティストおよび様々なメディアにおける表現に取り組んだアーティスト	空間特性の理解力を持ち、ユニークなアイディアの展開ができるアーティストおよびデザイナー（環境・プロダクト・建築・インテリア等）	文化の諸領域において、知的刺激を与える活動を行なっている（行なった）著名人。

適切なアーティストの選定方式には、大きく分けて「指名公募」方式と「一般公募」方式があり、両方式には「アーティスト」公募と「アートワーク」公募による選定方法がある。下記の表は、各種別の概要を述べ、選定方式のフロー及び留意点を記す。

	指名・指名公募		一般公募	
	アーティスト	アートワーク	アーティスト	アートワーク
内容	アートワーク評価・選定WGが候補者を選出し、審議の後に直接アーティストを指名する。 指名アーティストは、設置位置の現地確認後に案の提示を行い、審議及び調整後に案を決定する。	アートワーク評価・選定WGが候補者を選出し、審議した後、数名のアーティストを指名する。指名したアーティストにプロポーザルの提出を依頼し、その中から最も適切な者を選定する。指名を受け承諾したアーティストは、設置位置の現地確認後、提案を行い、アートワーク評価・選定WGはこれを審査してアーティストの最終選定を行なう。	プロジェクトに興味を持つアーティストが自身のプロフィール(過去の作品写真、作品評論記事、略歴等)書類をアートワーク評価・選定WGに提出する。委員会は書類審査を行い、候補者を選定する。その後、候補者は設置予定場所の視察等を行い、具体案を提出し、アートワーク評価・選定WGで審議される。場合によっては、候補者へのヒヤリング過程を入れることもある。	一般公募により具体的なアートワークの案を提出するコンペティションを行なう。応募者は設置場所を踏まえてアートワークのイメージやスケッチ・図面・模型等を提出する。アートワーク評価・選定WGは提出物を平等な条件の元に厳選に審査し、最優秀案を決定する。コンペの規模により、第1、第2審査と分け、候補者にヒヤリングを行なう場合もある。一般的には、入選者には賞金が出る場合が多い。
フロー	アートワーク評価・選定WG コンセプトの検討 ↓ アーティスト指名 プロポーザル作成 ↓ 検討／調整 ↓ 最終案の決定	アートワーク評価・選定WG コンセプトの検討 ↓ 候補アーティスト指名 プロポーザル作成 ↓ 審議 最終アーティスト選定 ↓ 最終案の提出／決定	アートワーク評価・選定WG コンセプトの検討 ↓ 公募開始(アーティスト書類) ↓ 候補アーティスト審査 (一次・二次) ↓ アーティストの決定 アートワーク案の作成 ↓ 最終案の提出／決定	アートワーク評価・選定WG コンセプトの検討 ↓ 公募開始(アートワーク案) ↓ アートワーク案の審査 (一次:案の審議) (二次:候補者の面接) ↓ 検討／調整 ↓ 最終案の決定
留意点	指定者を1名にしてしまうため、良いプロポーザル案が出なかった場合には、プロポーザルを再度依頼するか、指定者を変更する必要がある。	指定者を1名にすることに比較し、数名にプロポーザルを依頼するため、時間と事務的負担がかかる。	広い範囲から多くの参加者をつのるため、評価が既に確立したアーティストは応募を敬遠する傾向がある。	実現不可能な案やアマチュア的案が集めるリスクがある。また、公募による膨大な事務的作業が生じる。

2. アートワーク導入方式

2-1. 選定基準

2-2. 寄贈依頼作品等の受け入れ規定

2-3. 作品維持管理、移設・撤去に関する規定

2-4. 国内・海外事例

寄贈・寄付金について

寄贈と遺贈作品に関しては、選定基準を満たしていることを原則とする。

寄贈を受けた学部および職員等は、アートワーク評価・選定WGによる審査を受けるものとし、必要に応じて外部専門家の見解を聞くものとする。

寄付金に関しては、事務局を通して、新たに制作するアートワークのための資金として備蓄することとし、作品の決定に関しては、**アートワーク評価・選定WG**による審査を経ることとする。

1） 審査手順

寄贈希望者は事務局に連絡をとり、贈与又は作品の貸出の手順について協議する。寄贈者は寄贈作品の詳細（スケッチ、模型、作家資料、保証書等）を提出する。事務局は、**アートワーク評価・選定WG**とともに可能な設置場所のリストアップ、その他必要書類をまとめる。選定評価委員会は、提案作品に対し定められた寄贈作品評価基準をもとに審査をおこない、作品の適正や設置場所、設置工事費の確認等、必要事項を審議したうえで受入れの決定を下す。

国内外の政治機関から寄贈された場合、学部局内の室内（会議室・研究室）に作品が設置される場合はこの手順を免除される。

2） 審査内容

アートワーク評価・選定WGは以下の基準を元に審査を行う。

(1) 作品の質を判断するための概要説明書（スケッチ、模型、写真、アーティストの資格、作品の保証書等を含む）を提出する。

(2) 作品制作費・設置工事費、予想されるメンテナンス費・修理費。

(3) 作品の破損、破壊の際の取扱い、作品の安全性、その他特別な条件。

(4) 設置場所、作品の大きさ、大学の特性、自然環境に対する作品の適合性。

幅広く多種類のターゲットを設定し、簡潔かつ正確に寄付金募集の目的を伝える。寄付をすることによって寄付者にメリットがあるようなシステムを作ることが大切である。ターゲットにより、物理的、社会的、心理的メリット等設定する。また、寄付者向けに限らず幅広くパブリシティを行い、パブリックアートの企画自体の認知度を高めることも大切である。パブリックアートの目的、意義を理解し協力したくなるように思わせること、また、寄付することにより寄付者に利益が戻ってくることを理解してもらうことが必要である。また、プロセスに学生が関わることにより、パブリックアートをより学生にとって意味のあるものに感じてもらうと同時に寄付者の共感を得ることも考えられる。作品設置後の報告やイベントにより、成果を実感してもらうことも必要である。

寄付、スポンサーを募るにあたり、以下の点を考慮する。

1-パブリックアートの有益性

2-寄付者、スポンサーに求めること

3-ターゲット

4-寄付者、スポンサーにどのような利益を与えることができるか

5-寄付者、スポンサーにより魅力的な内容とする方法

6-パブリシティ

1-パブリックアートの有益性

学生の就学・生活環境、教職員の労働環境の文化的向上

九州大学らしさの形成

大学の人気、価値の向上

校外一般人に対する大学の開放性の向上

2-寄付者、スポンサーに求めること

寄付金

素材、機材の提供、制作援助

寄付金を募る際、ターゲットごとに寄付の対象を設定することも可能である。

3-ターゲット

卒業生、在学生父兄、その他個人、企業、助成団体（海外の奨学金等）他

4-寄付者、スポンサーにどのような利益を与えることができるか

＜卒業生、在学生父兄＞

・大学の発展に寄与する。

・大学とのつながりを再形成する。

・大学に名前を残す。

＜企　業＞

・パブリシティ効果。

・地元企業、学内テナントの場合、テナントや従業員の労働環境の向上。

・コミュニティへの貢献につながる。

5-寄付者、スポンサーにより魅力的な内容とする方法

＜卒業生、在学生父兄＞

・寄付者の名前の入ったプレートをつける。

・壁に寄付者の大学、大学生へのメッセージを彫る。

・作品のレプリカ、記念品をプレゼントする。

・除幕式のセレモニーに招待する。

＜企　業＞

・企業名を彫る。

・広告の機会を設ける。

・素材提供の場合は、芸術分野での実績をつくることができる。

6-パブリシティ

・パブリックアートについてのパンフレット配布。

・アーティストによる公開レクチャー、アートイベントへの招待。

・新聞、雑誌等のマスメディアへの掲載。

・完成済み作品のパブリックアートツアーの開催。

・同窓会、ウェブサイト、パンフレット、DM等、様々な媒体を通した募金募集。

その他アイデア

・毎年、生徒会などを中心に、目標額を作って大学生から募金を募り、募金額の倍額を大学等が寄付することによって、学生が寄付を行なうインセンティブを作る。

・学園祭等イベントを利用し、芸術系学生作品を販売し利益の一部を寄付してもらう。

・学食、大学グッズなどの利益の一部を寄付してもらう。特別メニューやグッズを作ることもできる。

・アーティスト・イン・レジデンス（アーティストが短期間滞在し、作品制作する。）を行い、公開制作の機会や学生、地元住民および関係者の参加を促し、制作援助金や制作補助の協力を仰ぐ。

・インターネットなどを使った振込み方法など、簡単に募金ができるシステムを構築する。

97年度に企業が実施した教育、芸術・文化分野での支援例	
日本 マクドナルド	・パブリックアートの寄贈（溜池山王駅） ・マクドナルドミュージアム設立
サントリー	演劇活動の支援・社外の美術展への協賛・サントリーホール
雪印乳業	・若者向けライブホールの開放・小劇場への活動協賛（金銭、物品）
マルハ	・大学への奨学寄付・地域住民の催事などへの寄付
ワコール	企業メセナ協議会／・（財）京都服飾文化研究財団／同志社国際高等学校教育後援会など約400団体へ、計2億4000万円
花王	美術部門20件
シャープ	・大阪大学、京都大学、立命館大学、東北大学 ・「国際デザイン展」・地元地区お祭り協賛・大阪港築港100周年記念事業
ソニー	・オーストリアにあるハイドンセンター「音と映像の博物館」リニューアル・オープンに際し、AV機器の寄贈
松下電器	・明治大学／電気通信大学／一橋大学／芝浦工業大学／東京外国語大学（周年記念事業）・（社）日本工芸会・国際こども平和壁画展・（財）新国立劇場
スズキ	・静岡文化芸術大学の付属施設建設の一助として1億円寄付 ・スズキ財団による大学や研究機関への研究助成（97年度、3,630万円）
ダイハツ	・京都大学創立100周年行事への寄付・池田市文化振興財団へ寄付
積水化学工業	・東京大学日本-カナダ両国の学生交流の支援 ・一橋大学、東京農工大学、東京工業大学、山形大学、大阪大学・ミクル劇団の支援：企業メセナ協議会・資金的援助：千里文化財団、大阪フィルハーモニー協会
日東電工	・約30件、国内外の大学へ奨学寄付を実施。
伊勢丹	・文化関係250万円・伊勢丹美術館による各種展覧会の開催
JTB	・メセナ協会への支援活動
日本生命保険	・（財）ニッセイ文化振興財団を通じたメセナ活動・オペラ教室 ・アジア諸国からの外国人留学生が行う研究への助成
日本信販	・各団体や協会に賛同し、カードの利用代金の一部が還元される「社会貢献カード」を発行。姫路城・熊本城・首里城など重要文化財の維持・保存、各種文化ホール、文化芸能活動をバックアップする「文化支援カード」を発行。
丸紅	・大学への寄付・新国立劇場への運営資金援助・NHK・九州・日本フィルハーモニー交響楽団の支援 ・ダウン症の児童の作成した作品展の支援・所有の絵画の貸し出し
リクルート	・ギャラリーの企画・運営・若いクリエイター活動を応援。・主要大学へ寄贈

2. アートワーク導入方式の策定

2-1. 選定基準の作成

2-2. 寄贈依頼作品等の受け入れ規定の作成

2-3. 作品維持管理、移設・撤去に関する規定の作成

2-4. 国内・海外事例のまとめ

アートワークの移設・撤去について

アートワーク評価・選定WGによる審査を受ける。

移設・撤去を実施する際には、アーティストとの契約書を再度照合し、実施の前にアーティストと協議の場を設ける。問題点を明らかにし、状況分析をおこなった上で、解決方策（移設、売却、寄贈、貸出し、返却、破棄）を決定する。売却の場合、アーティストが最初に購入権利を持つ。移設・撤去の実行は、大学総長により最終承認された後に行われる。

1）維持管理

アーティストはアートワーク納入時に、維持管理に関する下記の情報を提出する。

1. 仕様書（アートワークの材質、塗装している場合は塗料の種類、機材を使用している場合には機材メーカー情報、等）
2. 汚れ、破損した場合の対処を記した書類。
4. 日常的な清掃方法。
5. 年間の維持管理費の見積書。

2）移設・撤去の審議手順

1. アーティストとの契約書、関係書類の見直しをおこなう。
2. アーティストと現状の状況に関する協議をおこなう。
3. 外部者一人以上（修復家、建築家、評論家、美術史家、技術者等）の見解を聞く。
4. アートワーク評価・選定WGが召集され、解決方策が決定される。
5. 大学総長により承認後、方策が執行される。

3）移設・撤去が可能となる条件

1. アートワークに重度の修理を要し、修復が難しいこととなった場合。
2. アートワークが人々の安全を脅かしている場合。
3. アートワークの現状の状態、将来的安全性が確保できない場合。
4. 移設のための適切な設置場所がない場合。
   または設置場所の使用目的、性質が大きく変わりアートワークの意図を歪めてしまう場合。
5. 人々のアートワークに対する反応が長期にわたって極めて悪い場合。
6. アートワークの質が疑問視・問題視される場合。
7. 同じアーティストの他のアートワーク（さらに良いと思われる）に変更を求める場合。
8. アーティストから撤去が申請され、受理された場合。

2. アートワーク導入方式

2-1. 選定基準

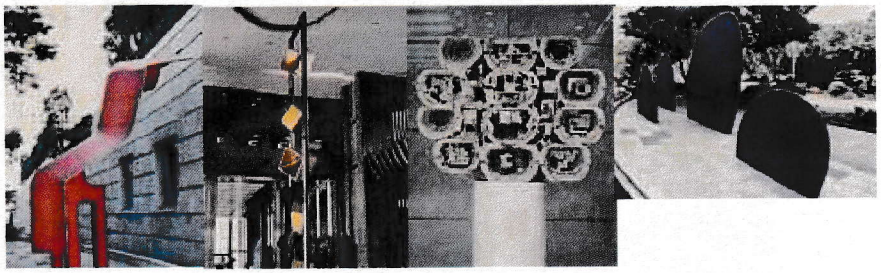
2-2. 寄贈依頼作品等の受け入れ規定

2-3. 作品維持管理、移設・撤去に関する規定

2-4. 国内・海外事例

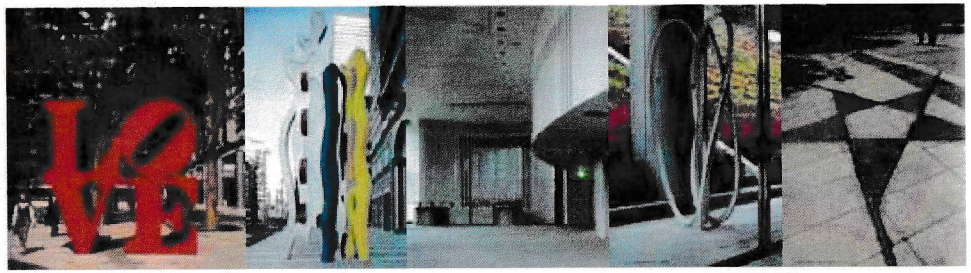
東京都庁舎

東京都庁舎	
目的	新都庁舎建設にあたり、都民に親しまれることとシンボル性を高める
規模	38点の設置（屋内13点、屋外25点）
予算	約15億円（総事業費の1%）　＊委員会運営費経費は別途
選定	1）委託作品選定組織「東京都新都庁舎アートワーク選定委員会」 （委員長：嘉門安雄、委員：学識経験者9名、専門調査員：美術専門家、建築家） 2）公募作品選定組織「東京オブジェ・コンペティション審査委員会」 （審査委員長：嘉門安雄、審査委員：美術関係者5名 3）作品価格選定組織「東京都新都庁アートワーク価格評価委員会」 （委員：美術館関係者および民間ギャラリー関係者6名）
選定基準	**①都民が誰でも気軽に鑑賞できるアート** **②新都庁舎の建築物に調和し、美術的価値において優れたもの** **③設置場所に合った作品で、作品同士の調和を考慮** **④代表的な海外の作家も加える** **⑤日本の現代美術を代表する作家と中堅等の優秀な作家を選抜**
保守監理	作品のメンテナンスは業者に委託し、年1回の清掃を行なう。
その他	一般公募に関しては、若手作家の育成を目的に実施された。公募作品は、1名1作で665点（海外作家27名）。入選作8点を選出。賞金は一律200万円で制作費は500万円。（設置工事費は別途）。 契約は、都と作家との直接契約を行なっている。 選定委員会推進期間は1年間、事前準備期間は6ヶ月程度 設定場所は、建築設計者と専門調査員側で協議し決定する



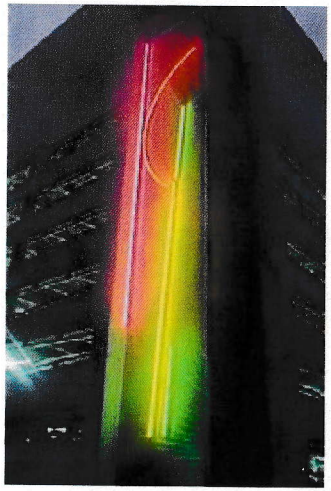
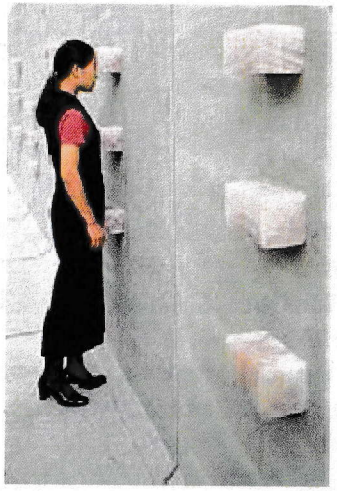
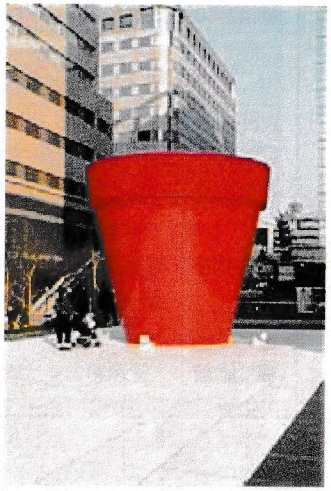
新宿アイランド

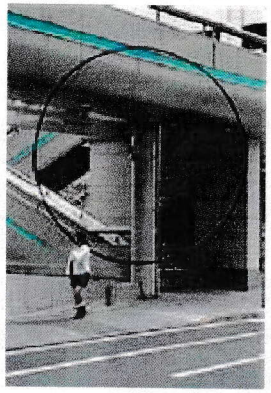
新宿アイランド　（住宅・都市整備公団東京支社）	
目的	市街地再開発事業の一環として、豊な街づくりを形成する
規模	作家10名による作品
予算	約10億円（総事業費の0．3%）
選定	プロジェクト・アーキテクト：（株）日本設計　六鹿正治 アートコンサルタント：南條史生／ナンジョウ・アンド・アソシエイツ
選定基準	**①国際的に現代美術で活躍する知名度の中堅以上の作家** **②環境や建築に調和する作品およびその作品を制作できる作家** **③耐久性が高く、長い時間置かれていても見飽きない作品** **④メンテナンスや著作権の問題をクリアする作品**
保守監理	第3セクターの新会社が担当する。メンテナンスとして、指定塗装色を詳細に指示する。
その他	選定組織は、設計者とコンサルタントとの間ですべてを決定する。コンサルタントが候補作家を選定し、設計者との協議の上決定する。設置場所は、設計者が決める。価格交渉は、すべてコンサルタントが行なう。契約は、すべて建築工事経由とする

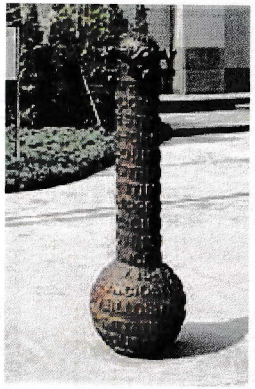


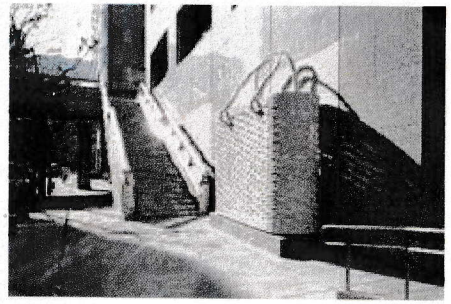
ファーレ立川

ファーレ立川	（住宅・都市整備公団東京支社）
目的	市街地再開発事業の一環として、新たな都市文化の装置として、また潤いと楽しさのある都市環境を形成する
規模	作品109点（すべて屋外作品）
予算	約10億円（総事業費の0．3%）
選定	アートコンサルタント：北川フラム／（株）アートフロント
選定基準	**①20世紀末を映し出す世界各国の作家** **②外部空間の諸要素を対象とした街と融合するアート作品** **③驚きと発見を感じ、人の五感に訴える作品群の形成**
保守監理	メンテナンスに関しては、作品別に仔細に書類作成し、塗装色や費用を明記する。
その他	コンセプトを『機能（ファンクション）から物語（フィクション）へ』とする。 作家選定および設置場所は、すべてコンサルタントが決定する。価格決定は、すべてコンサルタントが行なう。契約は、すべて造園工事経由とする。監理に関しては、公団がコンサルタントと業務契約を結ぶ。 設置後には見学会、シンポジウム、写真会などの市民参加イベントが実施される。

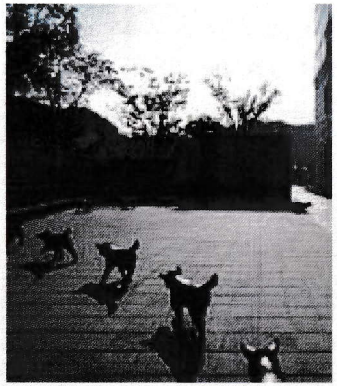
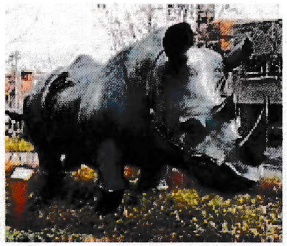



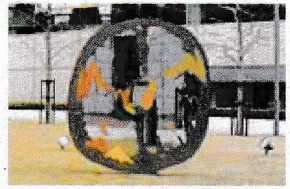


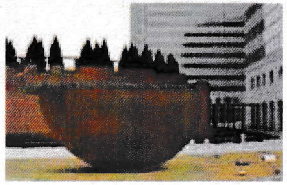


横浜ビジネスパーク

横浜ビジネスパーク　（野村不動産）	
目的	複合都市開発に伴い、心豊な知的活動を高めることと、近隣住民にも開放できる文化エリアを創造すること。
規模	作品50点（屋外：25点）
予算	約5億円（総事業費の0．5%）
選定	横浜ビジネスパーク・アート設置委員会 （委員長：グラフィックデザイナー河北秀也　委員：造園家、画廊、建築担当者）
選定基準	**①敷地全体を美術館と考え、「ユーモアー」というコンセプトで包む** **②人間・動物・幾何学・風景・植物・楽器・道具、7つのゾーン構成を設け、相応しい作家および作品を選定**
保守監理	管理運営費は設定していない。清掃等はビルメンテナンスの範囲で定期的。
その他	新規制作および既存作品購入は半々の比率。 委員会に選定を一任する形式ですべて任せる。選定には、著名作家やパブリックアート制作経験者といった判断基準ではなく、コンセプトを重視した。 作家への委託は、すべてギャラリー経由とする。






東京国際展示場

東京国際展示場　（東京都）	
目的	国際交流の場にふさわしく、また都民や訪れる人が親しめ心の豊かさを感じさせ、建築等周辺環境において象徴するアート計画を基本理念とする。
規模	6作家6点作品
予算	約5億円弱（総事業費の0．25%）
選定	企画委員会 （委員長：世田谷美術館館長・大島清次　委員：美術専門家4名ー美術評論家、美術館長、建築設計関係者1名）
選定基準	**①建築物や全体と調和し、都民に親しまれる** **②設置場所および設置作品間において調和する** **③維持管理経費がかからず、塩害や安全性に富む** **④国際施設にふさわしく新進気鋭の作家**
保守監理	一般的な清掃以外に特に作業は行なわない。
その他	委員会設置に先がけ、建築設計者にアート計画の策定および作家選定を委託し、企画委員会設置の必要を報告する。また、都主導で有識者数名を招聘し懇談会を開催する。その後、懇談会座長が会委員長となる企画委員会が発足した。委託業務期間（6ヶ月）において6ヶ所6名の作家をほぼ決定する。委員会での検討資料および事前作業は、専門技師（アートコンサルタント会社）が行なう。 アート工事はすべて作家との契約となる。（制作から設置工事までを含むが、アート工事に関わるコンサルタント費は設計範囲となり、予算計上される。）

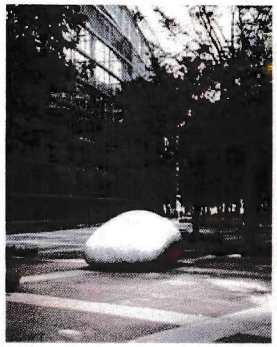


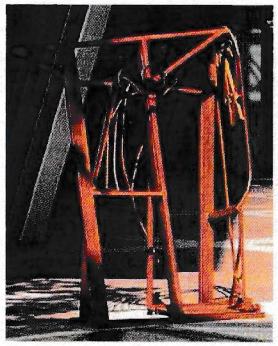


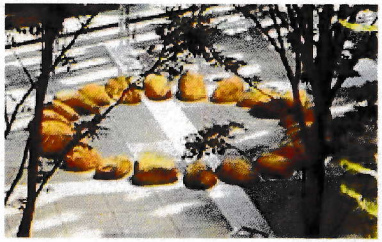


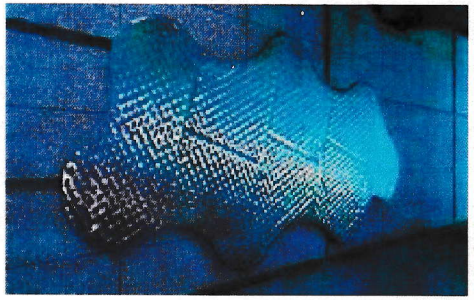
東京国際フォーラム

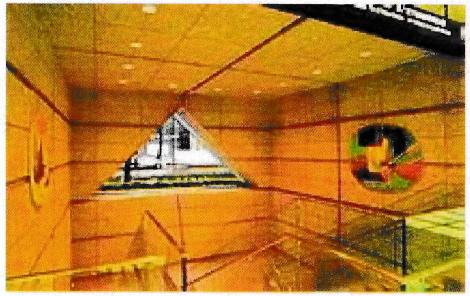
東京国際フォーラム　（東京都生活文化局）	
目的	国際会議場にふさわしく、かつ公共建築としての文化性を考慮する。
規模	主作品10点程度と絵画小作品数点
予算	約5～7億円
選定	東京国際フォーラム選定委員会 （アートプロデューサー、美術大学教授、デザイン評論家、建築家、美術評論家、建築評論家） 専門調査委員1名
選定基準	**国際会議場にふさわしい作家および作品**
その他	建築工事と切り離してアート導入計画をする。選定委員会は3ヶ月ごとに開催され、選定委員以外の建築関係者および建築設計者が参加する。設置場所、作家、作品内容等の基本的な計画は、専門調査委員により提示される。国際的にも著名な作家を候補者として選定する。アート工事の委託はすべて作家契約。

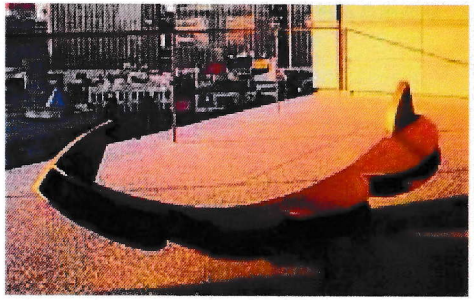








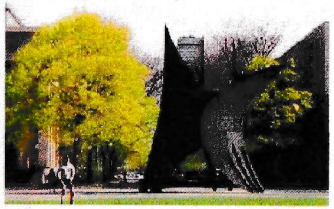


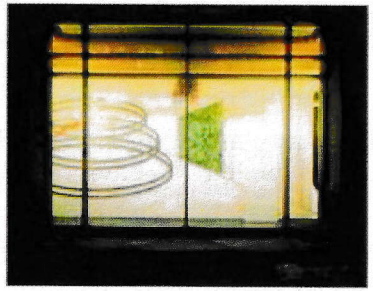


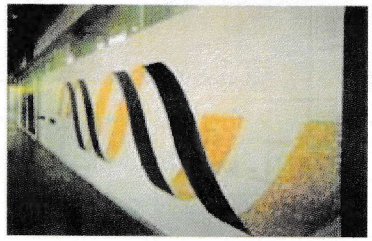
マサチューセッツ工科大学

マサチューセッツ工科大学	
名称	MIT 指針と手順 —美術作品と工芸作品の購入に関する指針—
管理部門	リスト視覚芸術センター
目的	キャンパスの環境を豊にし、MIT 内の関係者および一般市民の美的意識を高め、美術における教育と調査を支援する。
選定	クリエイティブ・アートカウンシル補助委員会 （取得委員会） （委員：視覚芸術センター・ディレクター、美術史教授、建築史教授、美術家、デザイン科教授、その他大学関係者2名）
選定過程	補助委員会の協議のもとに、委員長はクリエイティブ・アートカウンシルに推薦を行なう。その後、アートカウンシルは芸術学部学務課副総長に推薦をする。次に学総長に推薦をし、学総長は建築委員会と協議し、承認をする。 ＊上記の手順は、大学教員であるアーティスト、卒業生であるアーティストの場合にもすべて適応される。
選定基準	**①卓越し永続的な質を保つ作品** **②学生・教諭・職員・地域社会へ公益をもたす作品** ＊寄贈と遺贈作品に関しても上記の基準を満たしている必要がある。
保守監理	MIT 美術館および視覚芸術センターが作品のメンテナンス、保管、保険、記録の責務を負う。 ＊コレクションに適正ではないが、大学施設のための装飾品や学部が特別に作品の取得を行ないたい場合は、この範囲ではない。
移設/撤去	大学は、作品が質の高さおよび指針に記されている適切さを保持していない場合、売却または処理する権利を持つ。
その他	1968年より、アートのための1%プログラムを実施している。新築および改築建築の建設費の1%をアートの費用に充てている。補助委員会はコミッション作品の価値評価を行なう。





例

52

添付資料

平成15年度新キャンパス計画専門委員会パブリックスペース・ワーキンググループ検討会議について

平成14年度に開催された「パブリックスペースワーキンググループによる検討会議」の議事録より、アートワークに関する協議録を抜粋し、これらの議論を踏まえてアートワークのテーマを検討する。

《第1回会議．平成14年12月10日》

＜各委員の自己紹介、パブリックスペース構成要素に対する意見が述べられた＞
・新キャンパスは地域に開放できるように考えたらよいと思う。
・フーコの振子を設置する計画があり、パブリックスペースでの地球の自転が目に見えるようなデザインをしてもらいたい。
・芝生の上を歩ける場所があってもよい。
・美的だけでなく、メンテナンスしやすいような仕組みを考える必要がある。
・外部からの来客に判りやすいサイン等が必要である。
・省エネにも考慮したストリートファニチャーが必要である。
・学生がキャンパス内にいたいと思うようなキャンパスづくりが必要である。
＜パブリックアート勉強会より＞
・福岡アジア美術館との協同し、作品を交換展示することも可能ではないか。
・全体として流れる基調となるもの、空間、素材、スケール等を考える必要がある。、

《コアチーム第1回会議．平成14年12月27日》

＜アート、デザインについて＞
・単純なアートではなく各学部のフィロソフィーを表すものであってよいのでは。
・工学系Ⅰについては、ケーススタディとして実施できるとよい。
・機能的誘導、正面性等が重要になる。
・大きいスケールで個性的な作品が良い。派手なデザインでもいいのではないか。
・コンセプチュアルな付加価値がほしい。
・「森のオゾン」も使えるのではないか。

《コアチーム第2回会議．平成15年2月4日》

＜アート、デザインについて＞
・宇宙を表すアート（高エネルギー研究所）は研究機関としてのテーマ性が合致している。
・理念、精神がいる。「アジアの若手」、「鉄」などというこだわりが必要。
・コンセプトにイデーがない。「伝統」、「象徴」というワードが気になる。
・「古いのもが最も新しい」
・大学の生活に結びついた言葉を使うべきである。
・「知の胎盤」

《第2回会議．平成15年2月6日》

・全体的な事案と個別の事案を区別して検討を行い、全体的なランドスケープを決定した後、各地区の特色を出すようなアートにしていく予定である。
・人によって感覚が違うため、その年代の一で感覚を取るかで違ってくる。ワークショップ等を行なう必要があるのではないか。

《第3回会議．平成15年3月4日》

・テーマ（言葉）を共有しなければならないのでは。
・新キャンパスの地形を見ると「始祖鳥」のイメージが湧く。
・色彩については基本的に日本の色彩も考えていってはどうか。
・キャンパス全体の色彩の流れを今後検討していく。
・ランドスケープとアートスケープを同時に考えていく必要がある。

おわりに

伊都キャンパスへの第1陣の移転時期に「パブリックスペース・アートワーク整備計画」をとりまとめることができた。これは、関係者の理解と協力、推進にその多くを負うものである。「パブリックスペース・デザインマニュアル」をふまえ、本書が各地区におけるデザインの一貫性と一体性を保証する横糸のひとつとして機能することが期待されている。

九州大学が伊都キャンパスの整備を完遂し、西日本における知の拠点として、地域と共に更なる発展を遂げる姿が希求される。

伊都キャンパス整備と伊都キャンパスを核とする九州大学学術研究都市づくりに向けて、関係各位のご支援を引き続きお願いする次第である。

新キャンパス計画専門委員会　パブリックスペース・アートワーク整備計画関係者名簿

新キャンパス・マスター・アーキテクト委員会
◎渡邉　定夫
○中村　英夫
○有川　節夫
柴田洋三郎
今西裕一郎
江頭　和彦
渡邊　俊行
佐々木葉二
落合　太郎
出口　敦
小島　敏行

新キャンパス環境監視委員会
◎有川　節夫
柴田洋三郎
○神野　健二
白石　進
江崎　哲郎
島谷　幸宏
井村　秀文
浅野　直人
春山九州男
大渕　和幸
通山　正年
小島　敏行

新キャンパス計画専門委員会
◎有川　節夫
○柴田洋三郎
吾郷　眞一
中野　仁雄
小寺山　亘
今西裕一郎
柳原　正治
早田　憲治
渡辺　浩志
佐藤　優
林　徹夫
高木　彰彦
森川　哲雄
高橋　靖恵
石田　正治
大下　丈平
岡野　進
舘田　英典
谷口　説男
石橋　健二
石田　壽一
長谷川　勉
吉田茂二郎
荒木啓二郎
濵田　吉男
廣川佐千男
一宮　厚
野中　和明
中島　秀紀
清水　百合
緒方　一夫
大城　桂作
竹下　輝和
緒田　文武
石川　捷治
神野　健二
白石　進
坂口　光一
有馬　學
外井　哲志
大渕　和幸
大槻　秀明
穴沢　一夫
通山　正年
松本　進
小島　敏行

ウエスト・ゾーンワーキンググループ
◎大城　桂作
村上　敬宣
立居場光生
荒殿　誠
中島　秀紀
石橋　健二
長谷川　勉
舘田　英典
谷口　説男
外井　哲志
濵田　吉男
吉田茂二郎
大渕　和幸
大槻　秀明
穴沢　一夫
通山　正年
松本　進
小島　敏行
木村　康之
北川　宏
加藤　工
釣本　敏樹
福本　康秀
甲斐　昌一
坂井　猛
松岡　力

イースト・センター・ゾーンワーキンググループ
◎竹下　輝和
川本　芳昭
森川　哲雄
高橋　靖恵
石田　正治
大下　丈平
岡野　進
舘田　英典
長谷川　勉
野中　和明
荒木啓二郎
濵田　吉男
清水　百合
緒方　一夫
大渕　和幸
大槻　秀明
穴沢　一夫
通山　正年
松本　進
小島　敏行
今任　稔彦
高浪　洋一
近藤　昭夫
松岡　力

農場計画ワーキンググループ
◎緒田　文武
神野　健二
吉田茂二郎
白石　進
有馬　隆文
矢原　徹一
金澤晋二郎
中野　芳輔
増田　泰久
松岡　力
望月　俊広

福利厚生施設ワーキンググループ
◎石川　捷治
石田　正治
清水　百合
一宮　厚
稲葉　継雄
吉村　和久
麻生　茂
膝舘　俊広
西山　和徳
吉住　誠司
鈴本　司
齊野　貴浩
松岡　力

未来型キャンパスづくりワーキンググループ
◎大城　桂作
吾郷　眞一
神野　健二
中島　秀紀
野中　和明
○渡邊　俊行
原　雅則
古川　勝彦
池水　喜義
松岡　力

情報通信基盤ワーキンググループ
◎廣川佐千男
荒木啓二郎
中島　秀紀
古川　哲也
大月　彩香
中島　直樹
岡村　耕二
笠　敏治
松岡　力

環境ワーキンググループ
◎神野　健二
○白石　進
緒田　文武
矢原　徹一
江崎　哲郎
牛島　恵輔
今坂藤太郎
島谷　幸宏
広城　吉成
塚原　健一
池水　喜義
毛利　孝之
多田内　修
松井　誠一
筑紫　二郎
和田信一郎
川口　栄男
松岡　力

緑地管理計画ワーキンググループ
◎白石　進
矢原　徹一
江口　和洋
川口　栄男
玉泉幸一郎
毛利　孝之
多田内　修
薛　孝夫
井上　晋
松井　誠一
藤木　實
近藤　昭夫
松岡　力

タウン・オン・キャンパスワーキンググループ
◎坂口　光一
石田　正治
外井　哲志
南　博文
出口　敦
毛利　嘉孝
松隈　明彦
矢幡　久
古川　勝彦
塩田　剛志
松岡　力

文化財ワーキンググループ
◎有馬　學
宮本　一夫
折田　悦郎
田中　良之
南　博文
堀　賀貴
岩永　省三
薛　孝夫
松岡　力
塩田　剛志
藤木　實

交通計画ワーキンググループ
◎外井　哲志
岡野　進
谷口　説男
舘田　英典
麻生　茂
坂井　猛
鶴崎　直樹
濵上　康英
塩田　剛志
鈴本　司
松岡　力

パブリックスペースワーキンググループ
◎佐藤　優
吾郷　眞一
大下　丈平
舘田　英典
谷口　説男
長谷川　勉
吉田茂二郎
竹下　輝和
大城　桂作
村上　敬宣
坂井　猛
森田　昌嗣
薛　孝夫
池田　大輔
塩田　剛志
杉本　正美
松岡　力

アートワーク評価・選定ワーキンググループ
有川　節夫
◎佐藤　優
大城　桂作
村上　敬宣
川本　芳昭
後小路雅弘
舘田　英典
米村　典子
坂井　猛
大渕　和幸
通山　正年
小島　敏行

安心・安全プロジェクトチーム
◎大城　桂作
石川　捷治
白石　進
廣川佐千男
外井　哲志
佐藤　優

移転プロジェクトチーム
◎柴田洋三郎
石橋　健二
長谷川　勉
圓福　敬二
後藤　雅博
大枝　良直
出光　一哉
原　一広
高田　保之
石川　捷治
濵田　吉男
田中　健夫
福留　留美
一宮　厚
坂井　猛
塚原　健一
坂東　博美
秋枝　一敏
塩田　剛志
小坂　慎二
鈴本　司
齊野　貴浩
松岡　力
臼杵　純一

新キャンパス・ライフスタイルプロジェクトチーム
◎山口　裕幸
廣川佐千男
坂口　光一
久米　弘
坂井　猛
松岡　力

新キャンパス計画推進室
◎有川　節夫
○竹下　輝和
神野　健二
小島　敏行
江崎　哲郎
村上　和彰
緒田　文武
石田　浩二
○坂井　猛
広城　吉成
塚原　健一
鶴崎　直樹
濵上　康英
吉越　恆
渡邉　浩平
平野　泰光
古江　亮司
近藤　昭夫
松岡　力
執行　正敏
中尾　秀夫
郷原　保之
廻　正弘
緒方　孝一
佐伯　孝夫
山口　孝治
末永　直子

九州大学事務局

施設部
小島　敏行

施設企画課
近藤　昭夫
江頭　正訓
藤崎　司
米丸潤一郎
藤川　眞一
松下　栄司
有賀　俊文
宮地　治
長　賢
青柳　秀和
乗富　公一
石津　寛章
田代　明子
中原　剛

整備計画課
松岡　力
廻　正弘
緒方　孝一
佐伯　孝夫
山口　孝治
徳永　祐太
原田　利勝
本田　武寛
平尾　賢一

施設整備課
執行　正敏
齋藤　正実
西村　幸一
中本　浩司
宮川　弘成
安藤　豊幸
田鍋　和仁
中村　拓郎
楠木　康弘
溝口　洋二
見明さやか
野田　修
今川太一郎
片村　嘉孝
加茂　尚子

環境整備課
中尾　秀夫
江藤　和久
太田　榮基
山下　誠
渕上　清久
柳田　洋良
岩崎　龍矢
石田　巧
高崎　敏郎
早瀬　顕司
神代　晃宏
金縄　秀朗
愛甲　肇
西原　忠
丸山　諭
徳瀬　勇輝

施設管理室
郷原　保之
嶋津　高雅
岡野　公嘉
野口　亮太

統合移転推進室
秋枝　一敏
高田　清
二又　正隆
盆子原　勇
才野　佳道

株式会社タウンアート
田淵　照久
工藤　安代
天野　澄子

（順不同敬称略）

委員長、WG長：◎
副委員長　　：○

委員会及びWGの記載名は、平成17年4月1日付の委員会等名簿により作成したものです。